

【BIM－積算システム連携中間ファイル】

BS-Transfer／R C 仕様書(案)
解説編

Ver 1.0

2013年10月23日

日本建築積算協会

情報委員会

解説編は、「BS-Transfer/RC 仕様書」のレイアウト(テーブル定義書)について解説したものである。テーブル定義書のみでは内容が不明確な部分について、本書で具体的な事例を示して解説した。

目次

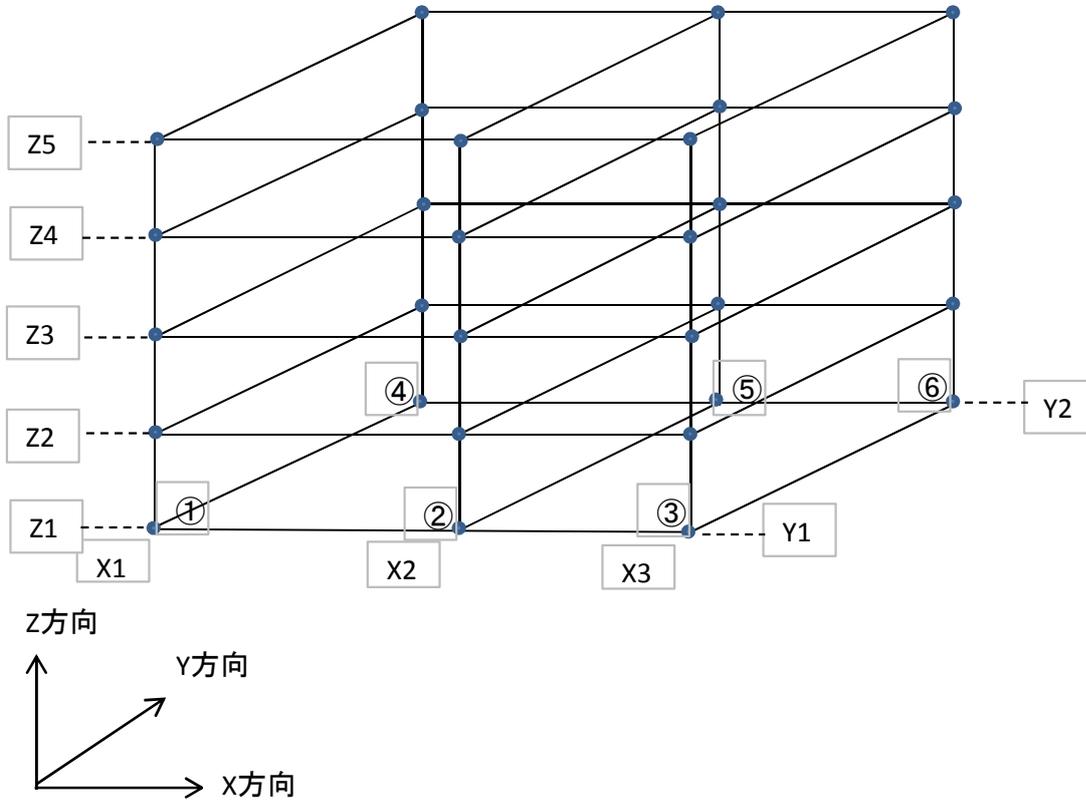
1	1 節点・通り芯交点 -----	1
	1.1 節点または通り芯交点のデータ構成	
	1.2 節点または通り芯交点のデータ表示	
	1.3 通り軸または通り芯の名称	
2	2 基礎 -----	3
	2.1 独立基礎	
	2.2 独立基礎断面	
	2.3 布基礎	
	2.4 布基礎断面	
3	3 柱 -----	9
4	4 間柱 -----	10
5	5 大梁 -----	11
6	6 小梁 -----	13
7	7 床 -----	15
	7.1 床の形状とタイプ	
	7.2 床開口	
	7.3 床の配筋	
8	8 壁 -----	18
	8.1 壁の形状	
	8.2 壁開口	
	8.3 壁の配筋	
9	9 雑 -----	20
	9.1 階段	
	9.2 パラペット	
	9.3 その他雑	
10	10 開口 -----	21
	10.1 床開口	
	10.2 壁開口	
11	11 テーブル定義書の解説 -----	23

1. 節点・通り芯交点

建物の主要部材(基礎、柱、梁)を3次元空間に配置する場合に拠り所となる点を節点または通り芯の交点とする。
その点を節点と呼ぶか、通り芯の交点と呼ぶかは、図面の記載に従う。

1.1 節点または通り芯交点のデータ構成

節点は、X方向通り軸、Y方向通り軸、階の交点をいう。
通り芯交点は、X方向通り芯、Y方向通り芯、階の交点をいう。



1.2 節点または通り芯交点のデータ表示

節点または通り芯交点は座標ポイントと3次元座標で表す。
座標ポイントとは、最下階、左下の節点または通り芯交点(上図①)を(1,1,1)、これを起点にX、Y、Z方向に点の位置が一つ移るごとに、(X,Y,Z)の各パラメータを、1つつ増やして各点を表したものである。

3次元座標とは、点のパラメータ(X,Y,Z)に対応した3次元空間の座標の値である。

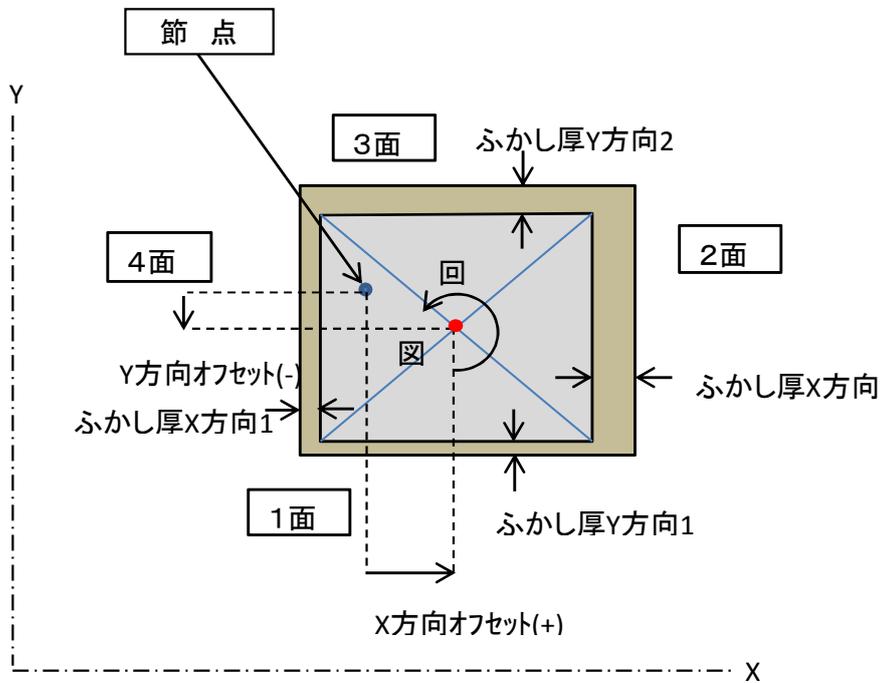
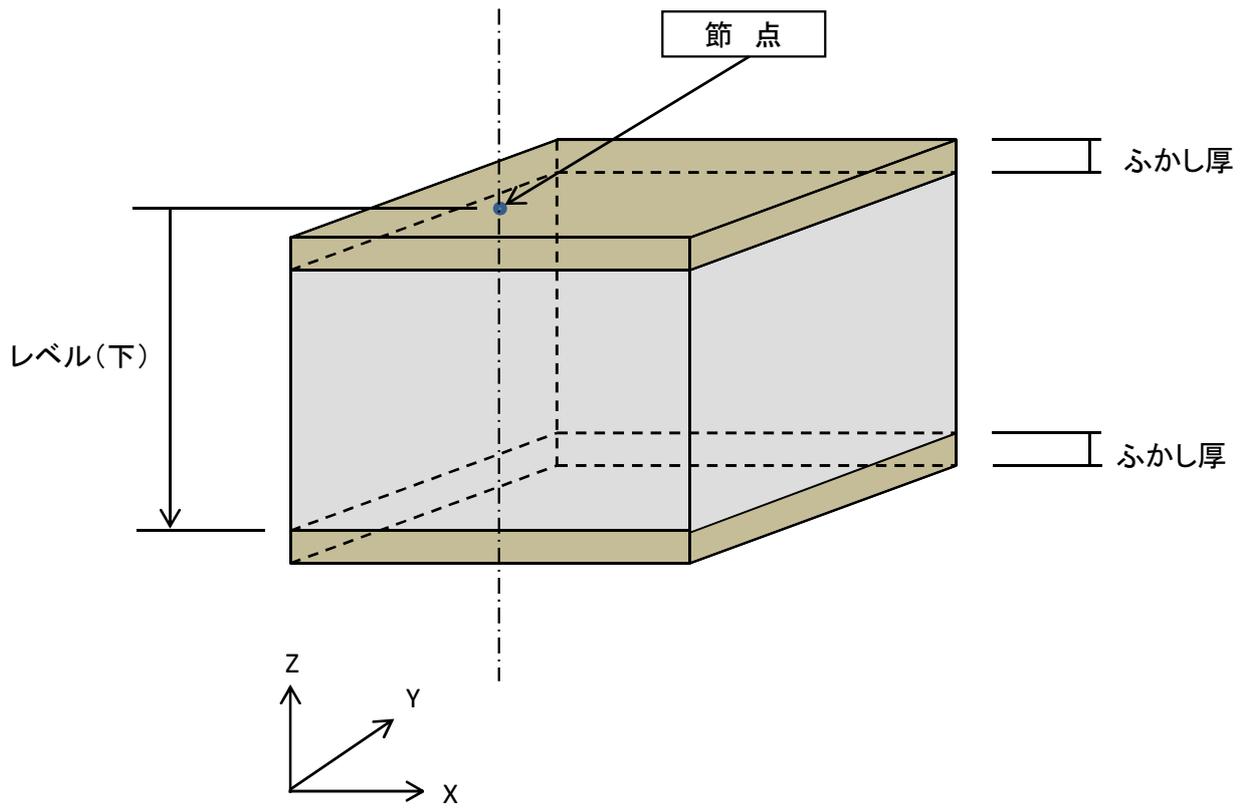
座標ポイント				3次元座標		
X軸・芯No.	Y軸・芯No.	階表示順コード		X座標	Y座標	Z座標
①	1	1	1	X1座標点	Y1座標点	Z1座標点
②	2	1	1	X2座標点	Y1座標点	Z1座標点
③	3	1	1	X3座標点	Y1座標点	Z1座標点
④	1	2	1	X1座標点	Y2座標点	Z1座標点
⑤	2	2	1	X2座標点	Y2座標点	Z1座標点
⑥	3	2	1	X3座標点	Y2座標点	Z1座標点

1.3 通り軸または通り芯の名称

X方向、Y方向の通り軸または通り芯の名称を定義する。

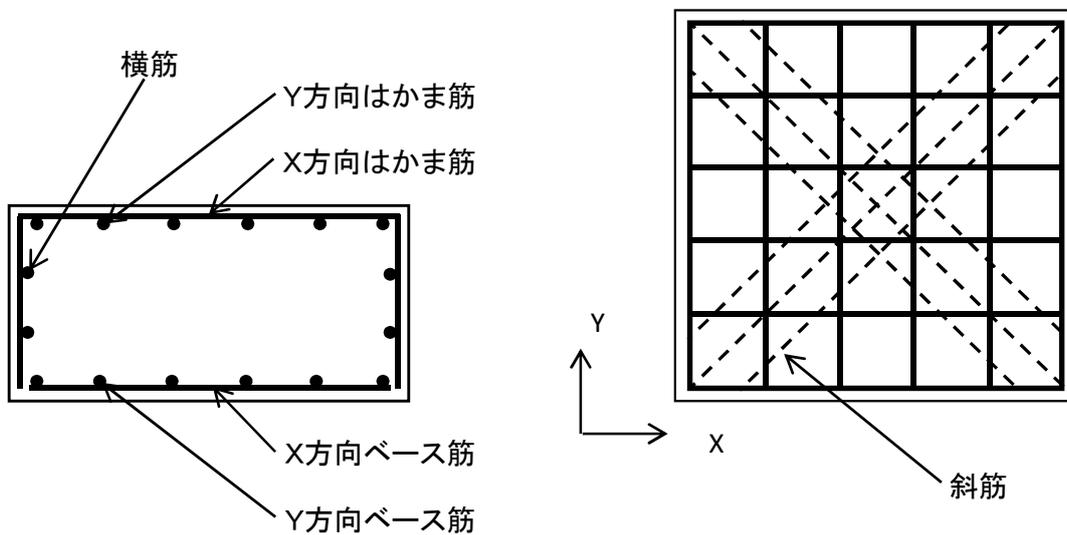
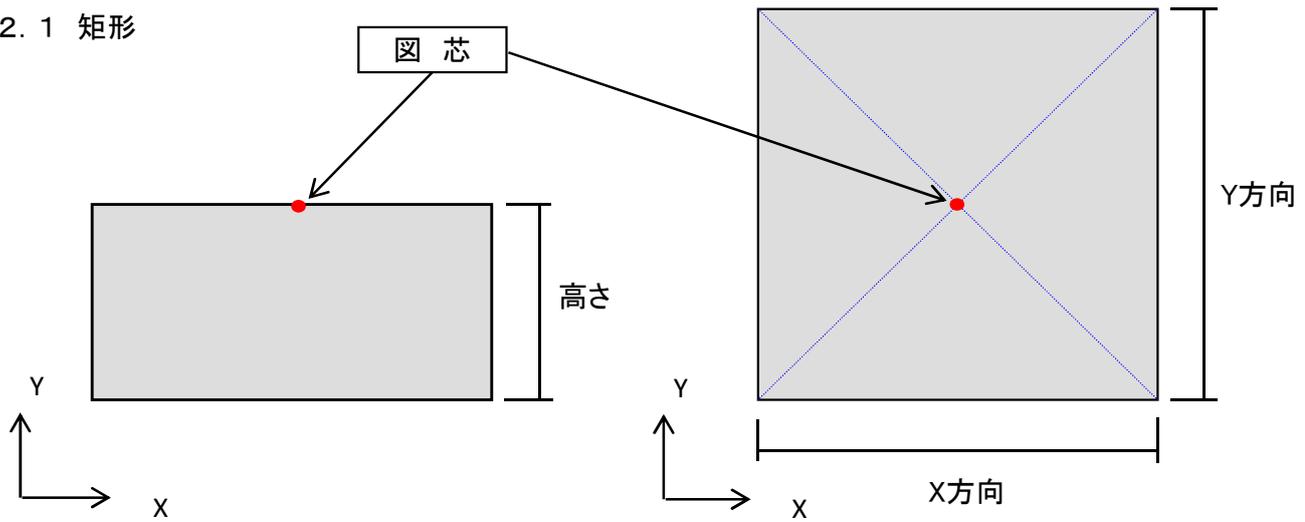
通り軸・芯名称				
XY区分	通り軸・芯No.	通り軸・芯名称	距離(mm)	
X	1	X1	9000	X方向の1番目の軸または芯の名称は「X1」とする。
X	2	X2	7000	X方向の2番目の軸または芯の名称は「X2」とする。
X	3	X3		X方向の3番目の軸または芯の名称は「X3」とする。
Y	1	Y1	10000	Y方向の1番目の軸または芯の名称は「Y1」とする。
Y	2	Y2		Y方向の2番目の軸または芯の名称は「Y2」とする。

2 基礎
2.1 独立基礎



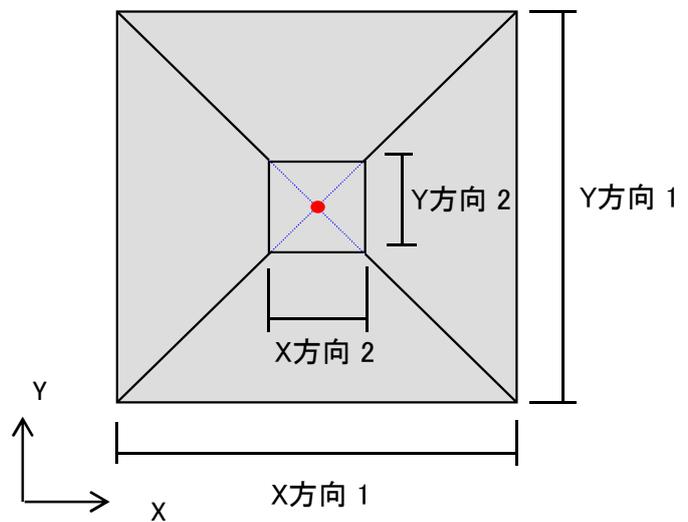
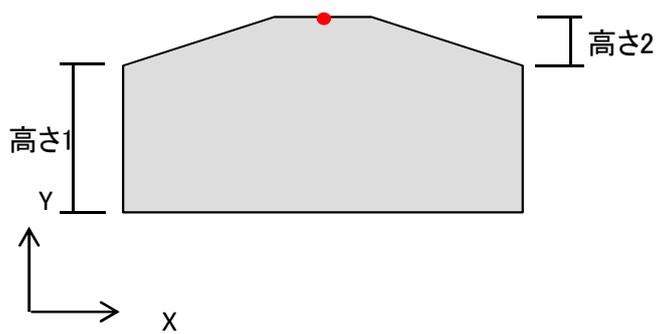
2.2 独立基礎断面

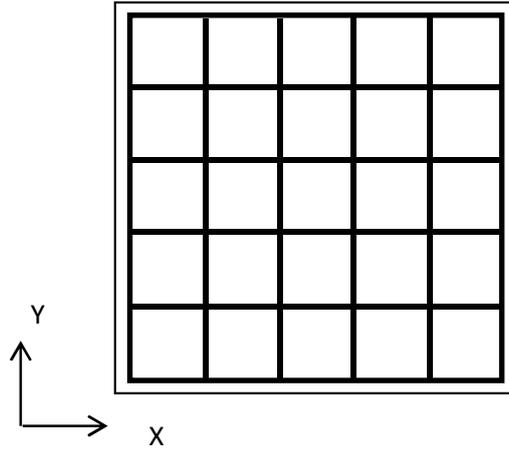
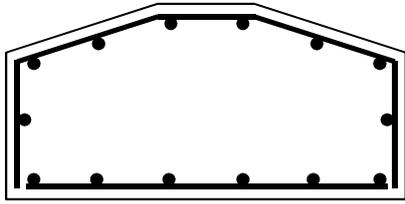
2.2.1 矩形



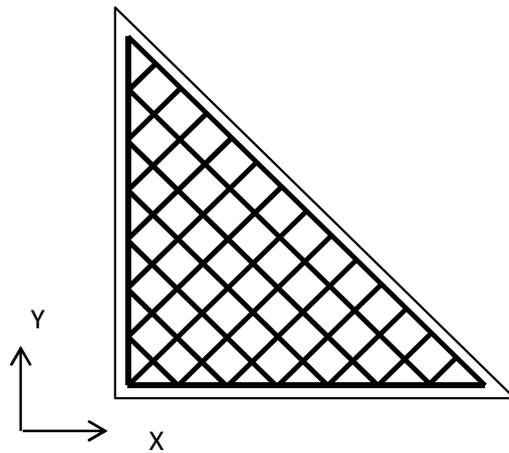
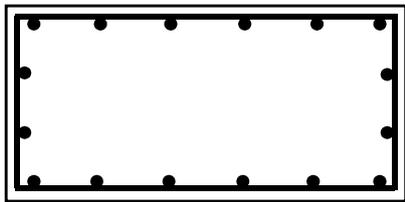
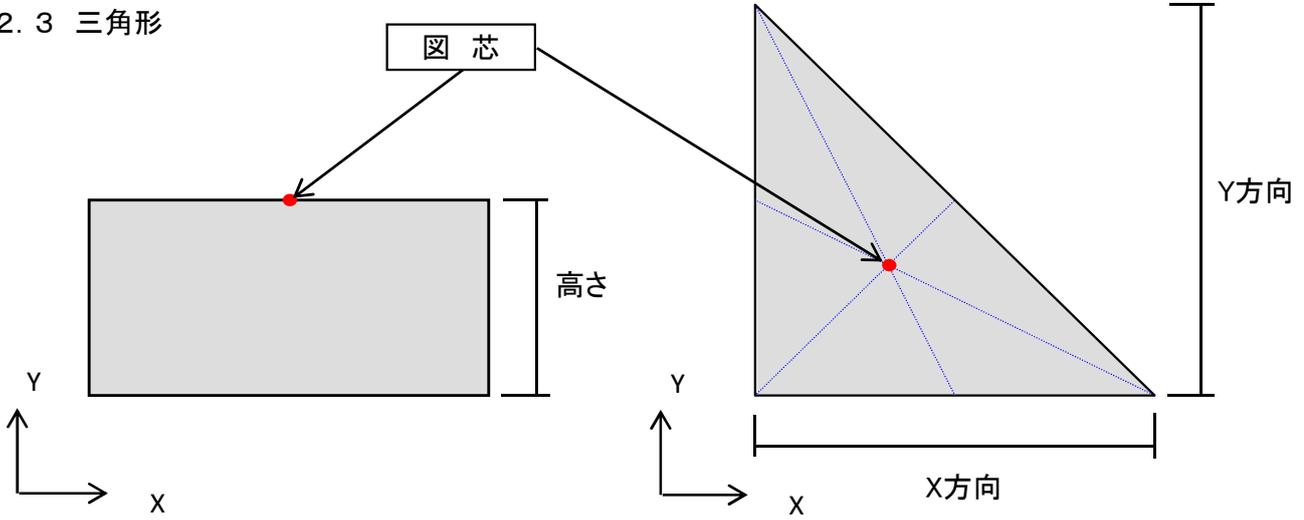
2.2.2 矩形テーパ

※ テーパー付きの場合、
柱は基礎の中心にあるものとする。

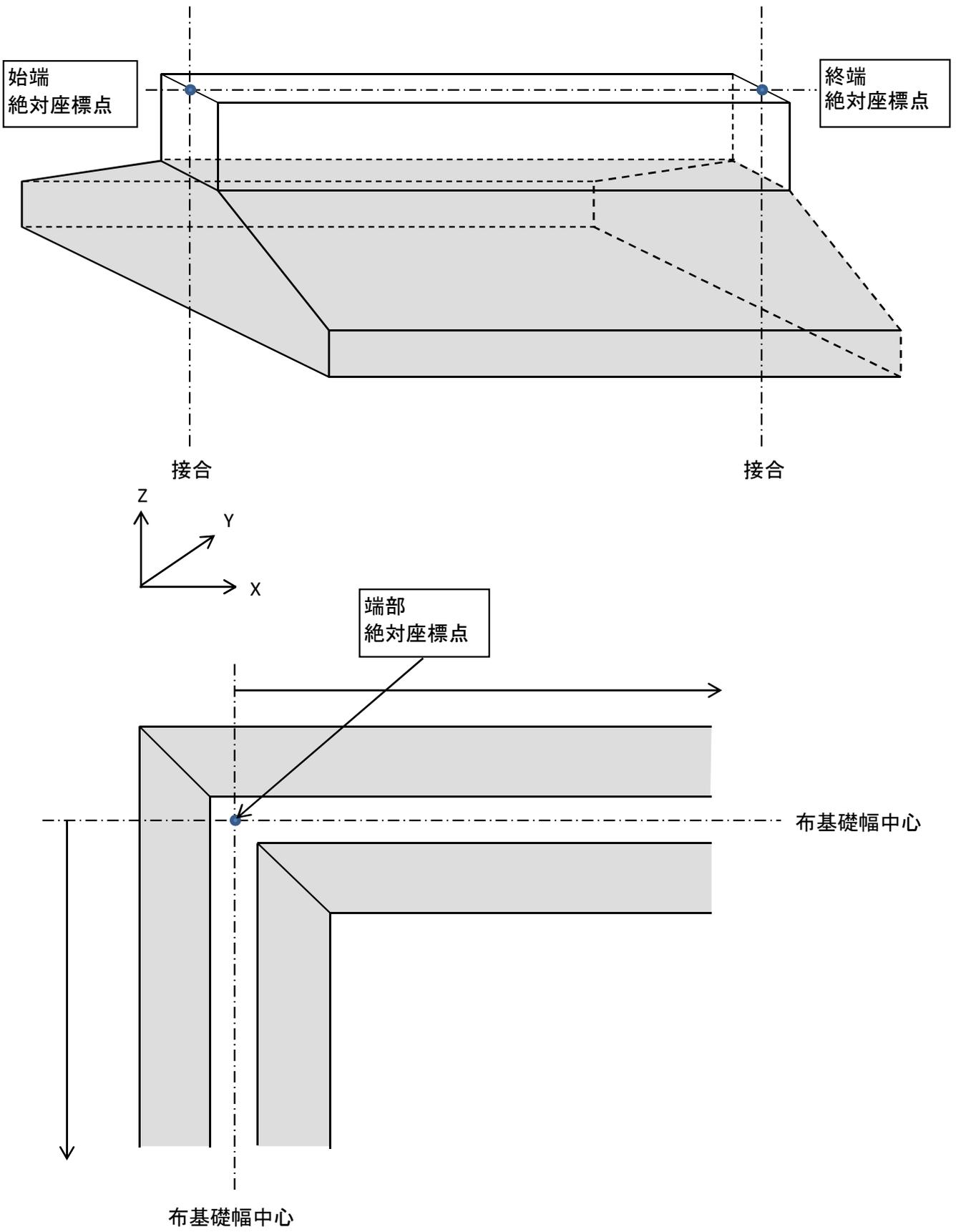


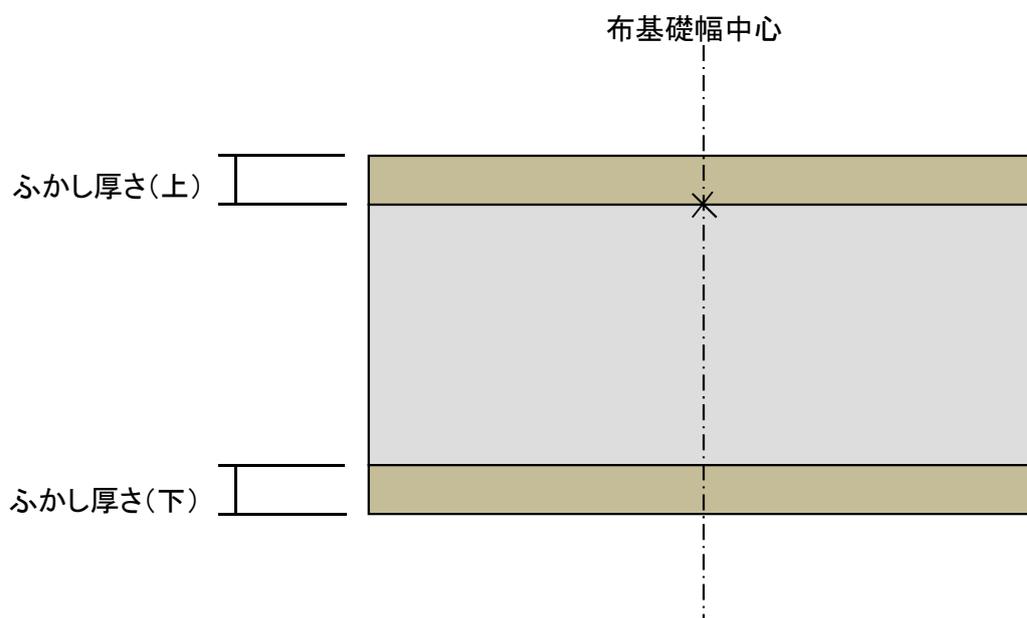
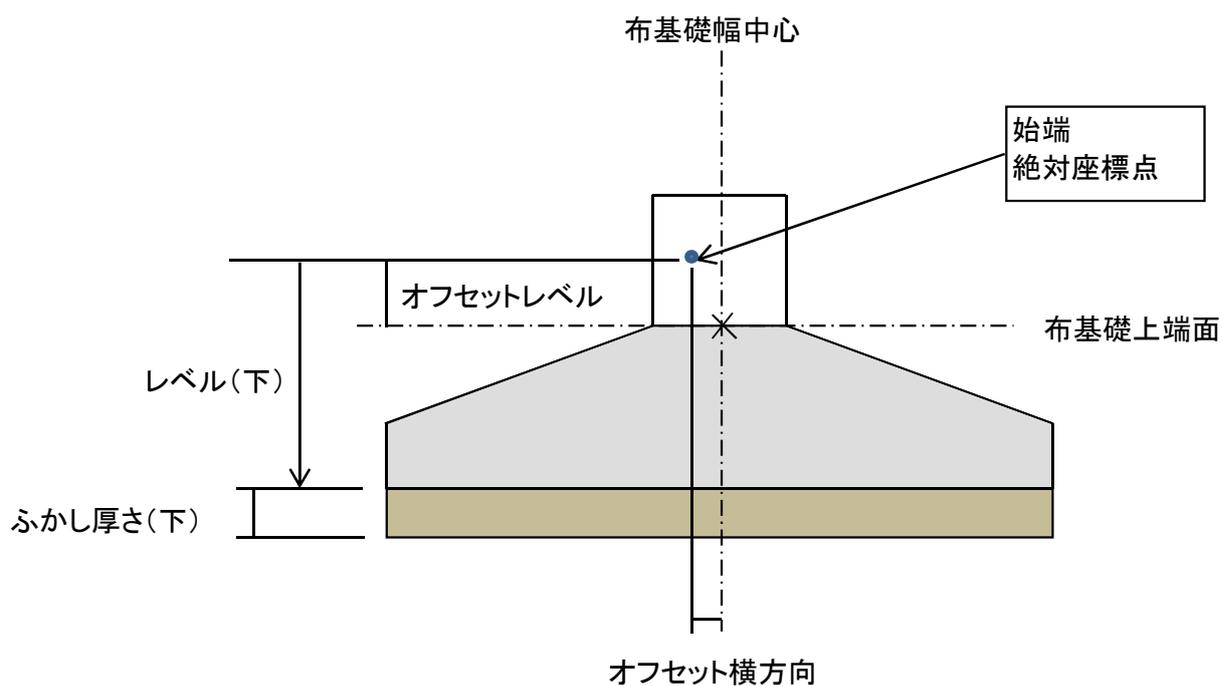


2. 2. 3 三角形



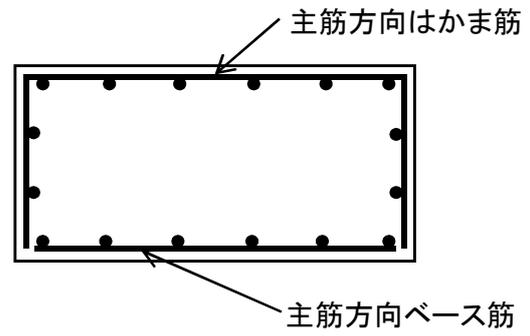
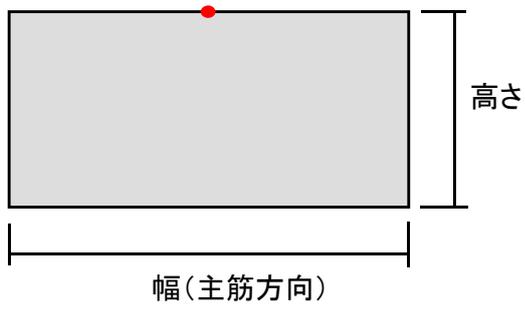
2.3 布基礎



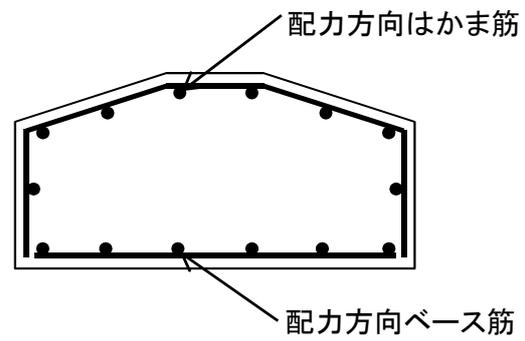
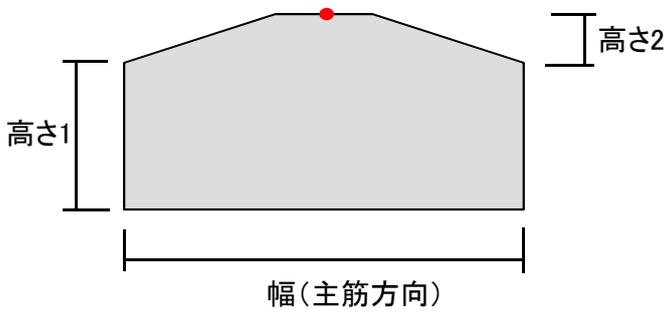


2.4 布基礎断面

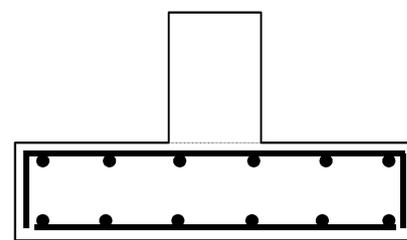
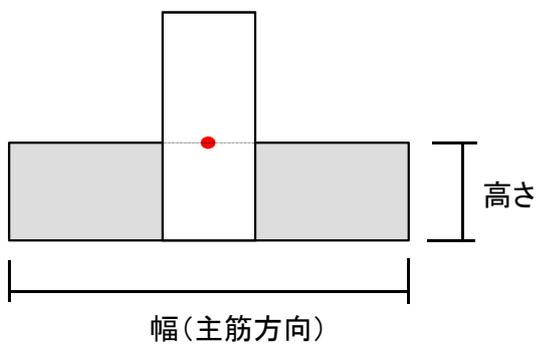
2.4.1 矩形



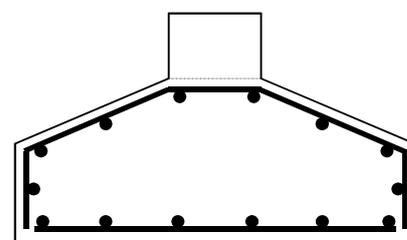
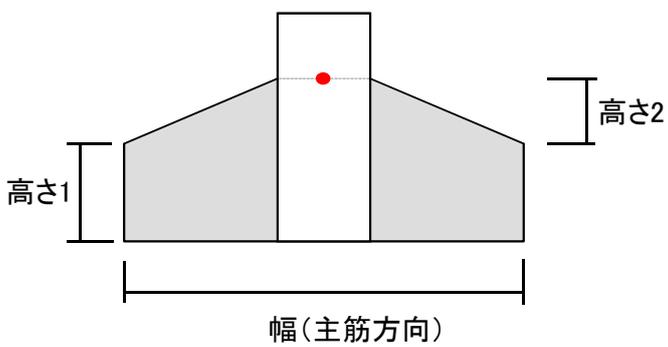
2-4-2 矩形テーパ



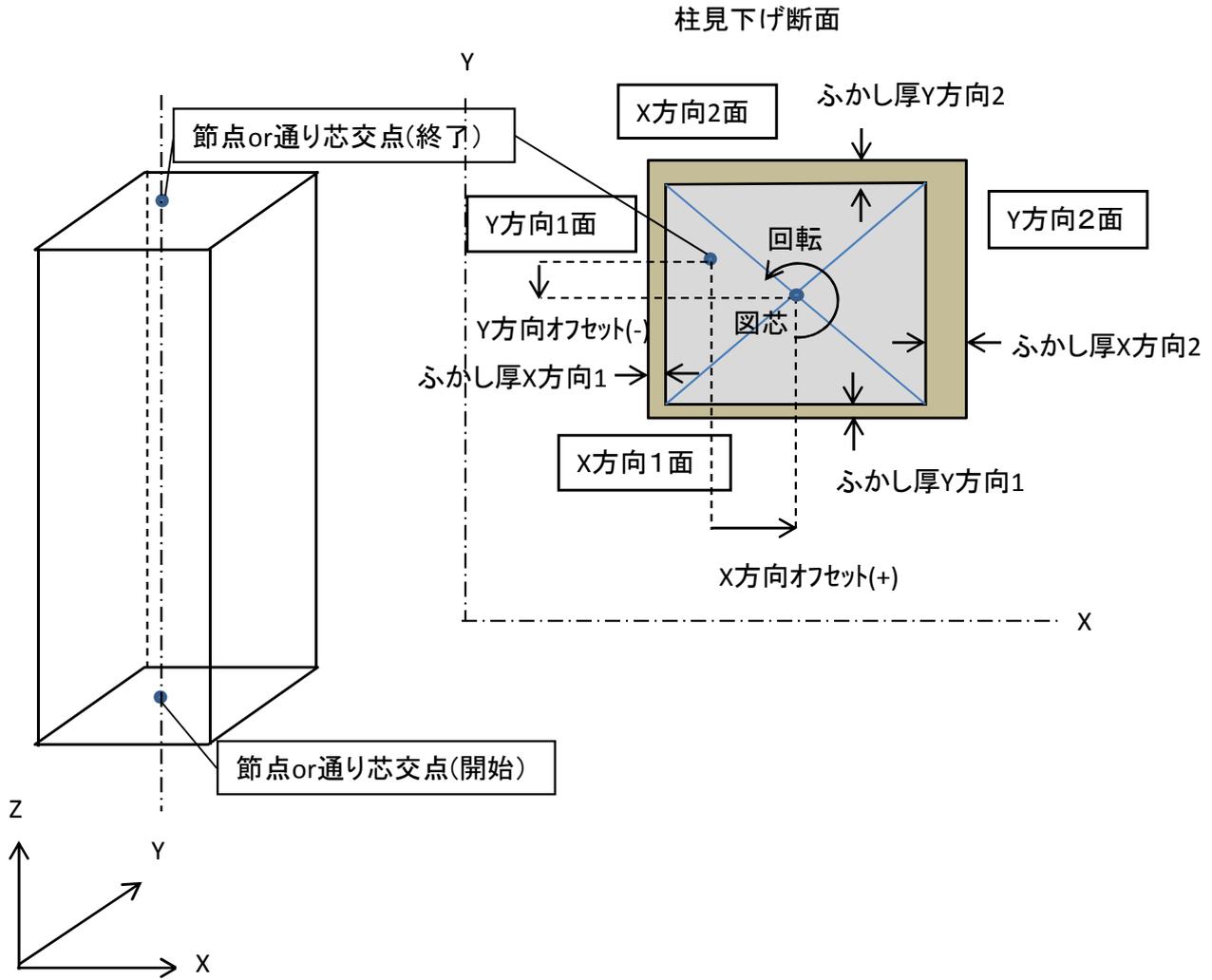
2-4-3 逆T形(地中梁に付く)



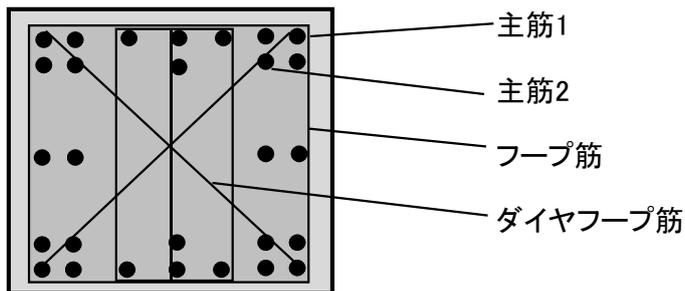
2-4-4 逆T形テーパ(地中梁に付く)



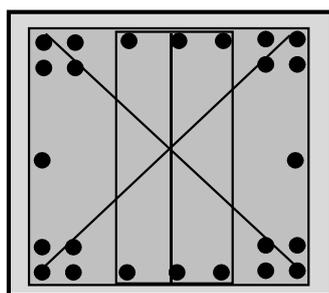
3. 柱



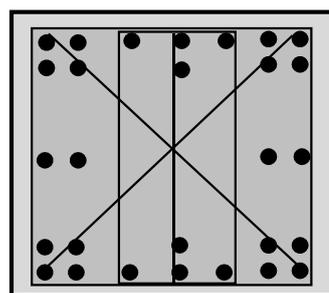
柱断面



柱頭柱脚

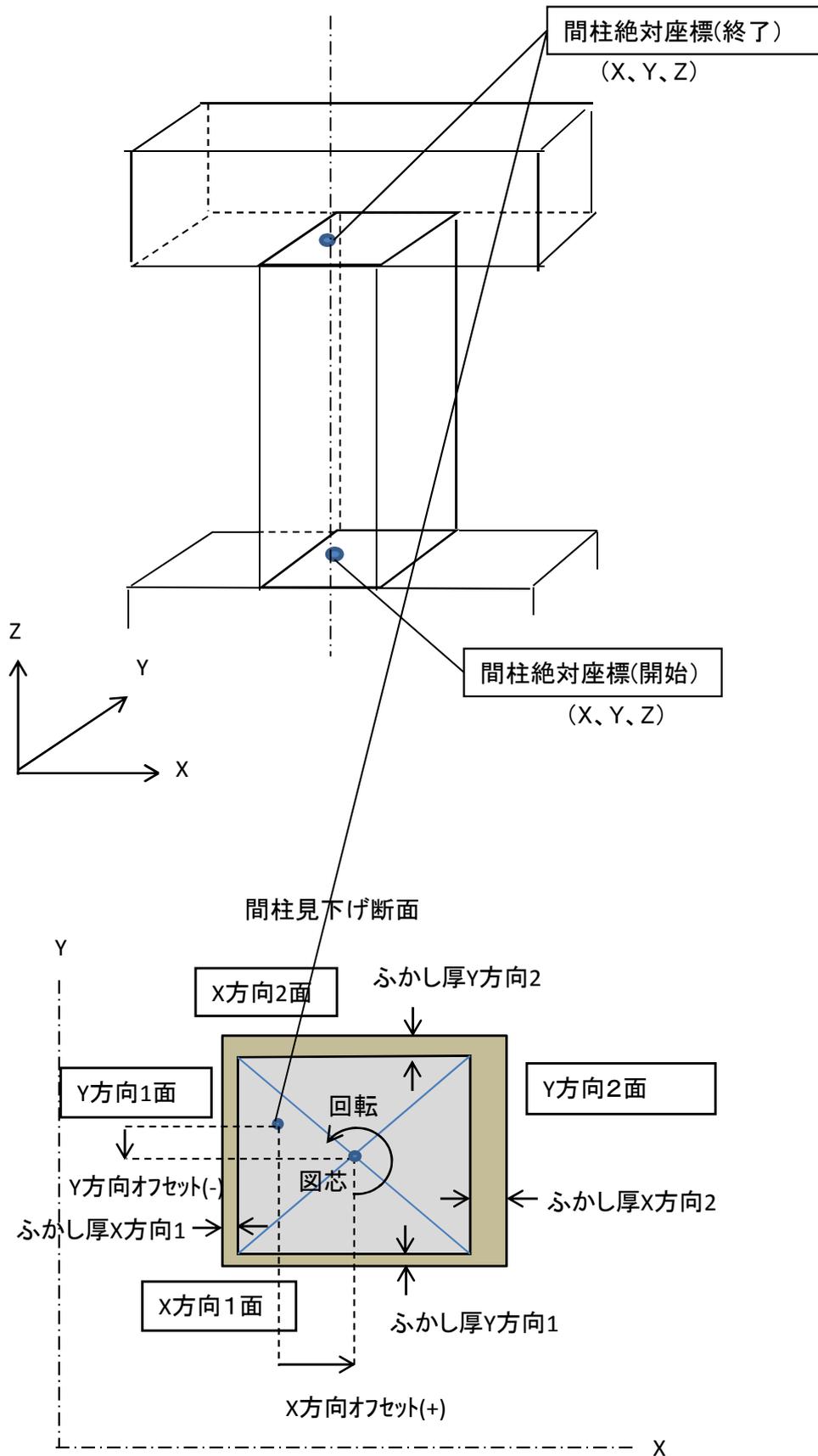


柱頭

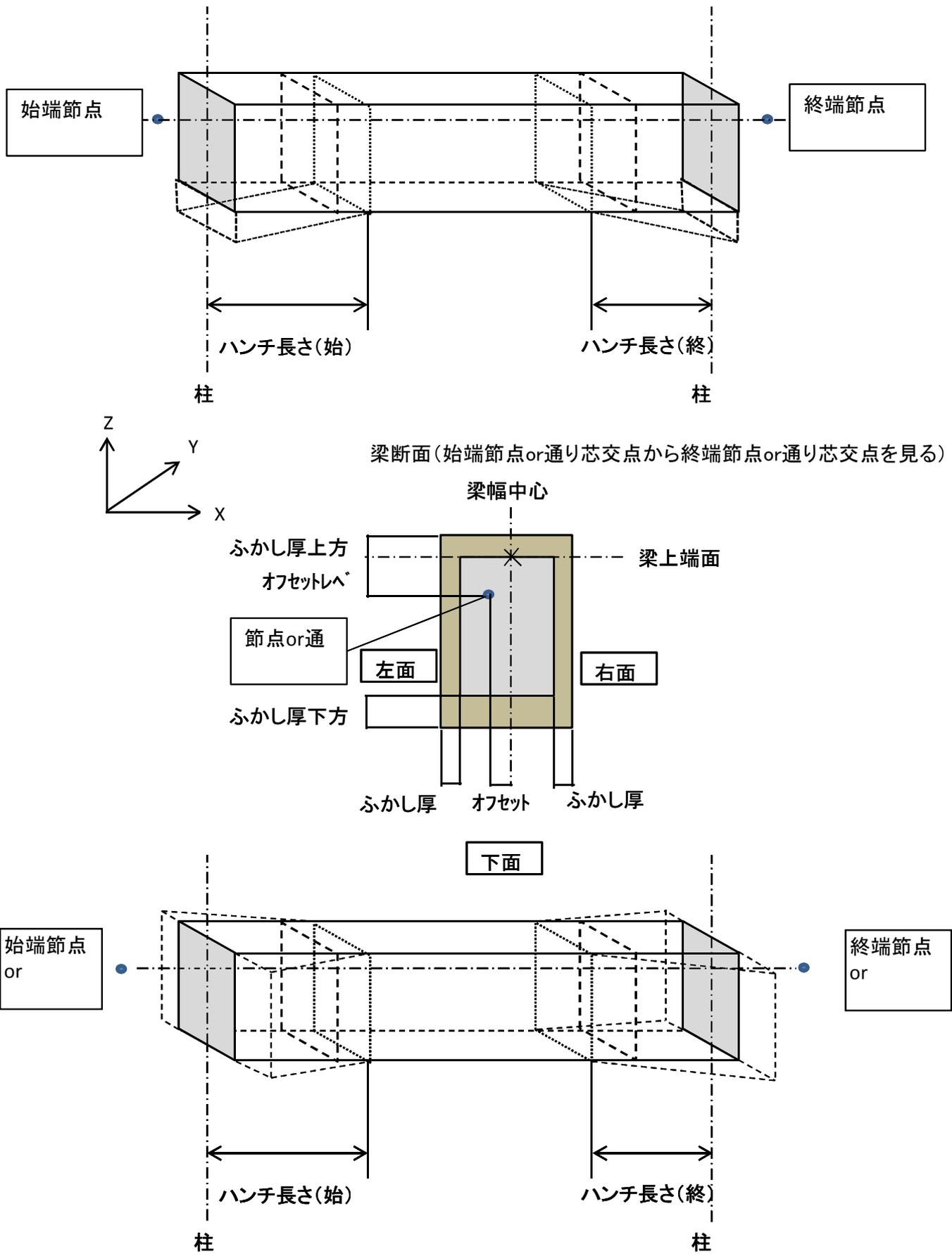


柱脚

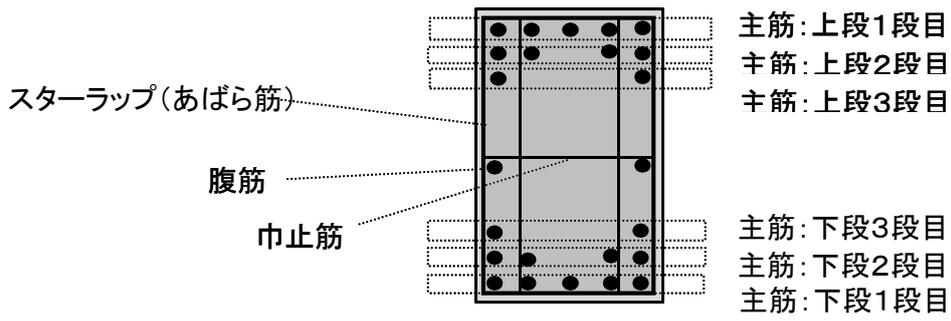
4 間柱



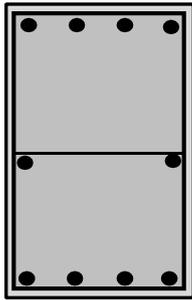
5 大梁



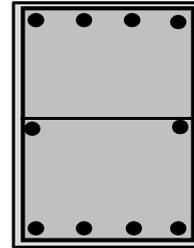
① 梁断面(ストレート)



② 梁断面(テーパ)

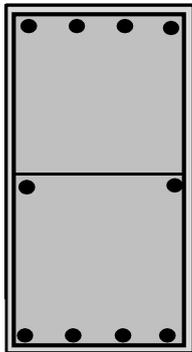


始端

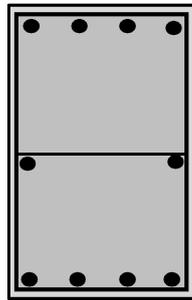


終端

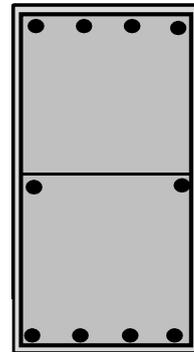
③ 梁断面(垂直ハンチ)



始端

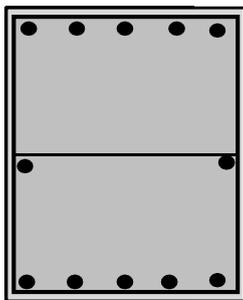


中央

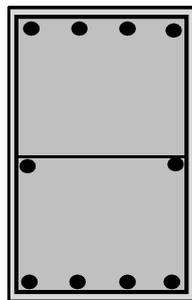


終端

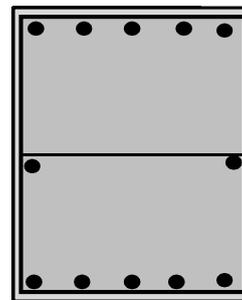
④ 梁断面(水平ハンチ)



始端



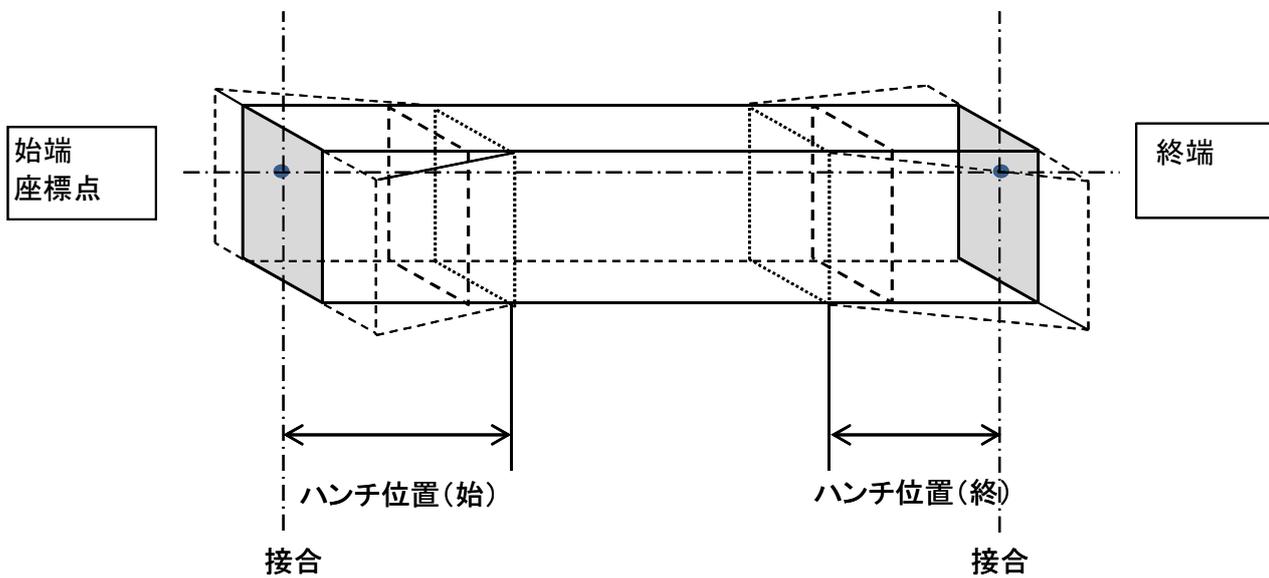
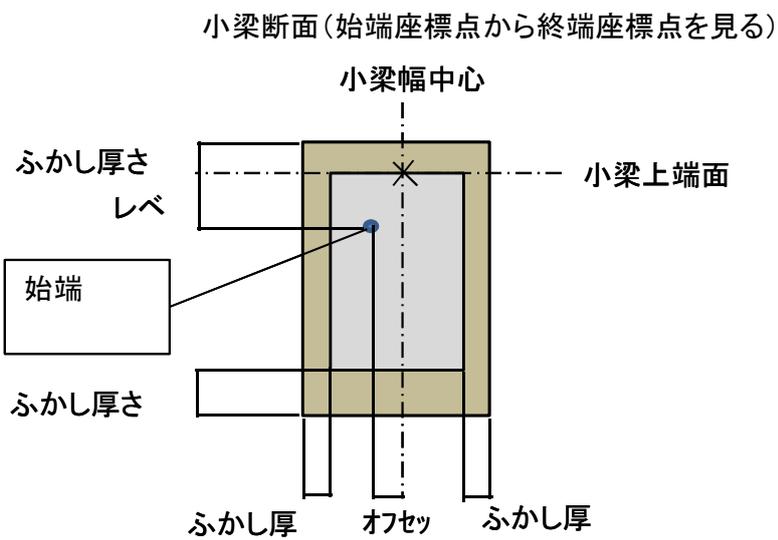
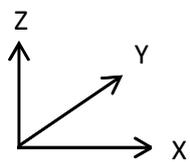
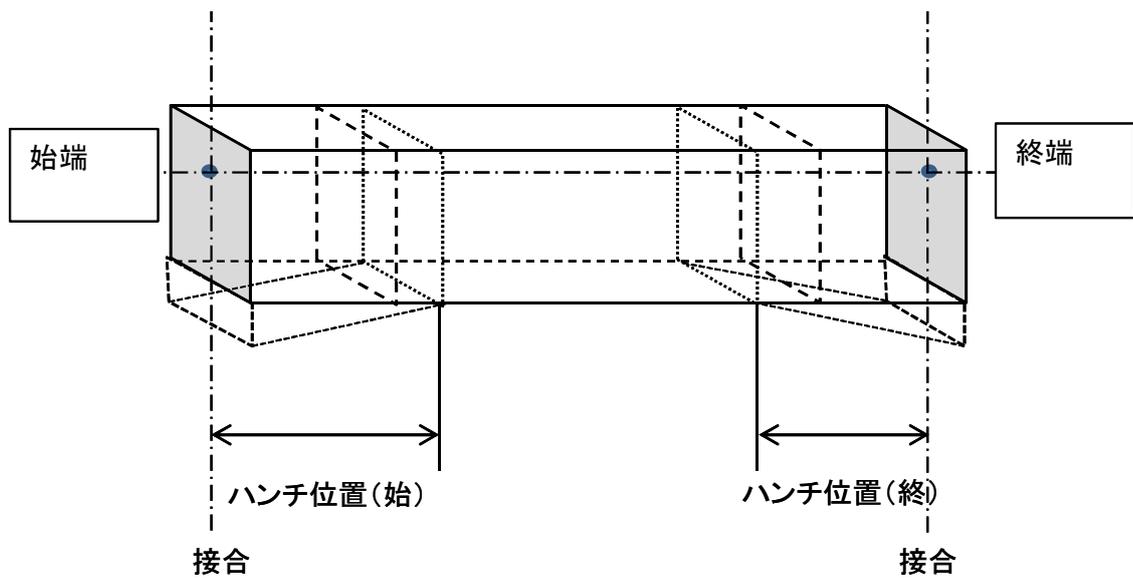
中央



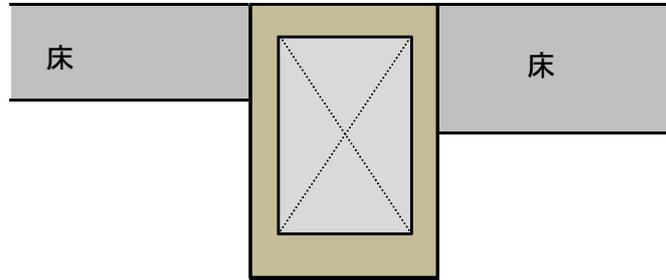
終端

※ 鉄筋本数が中央のみの場合はストレートとする。

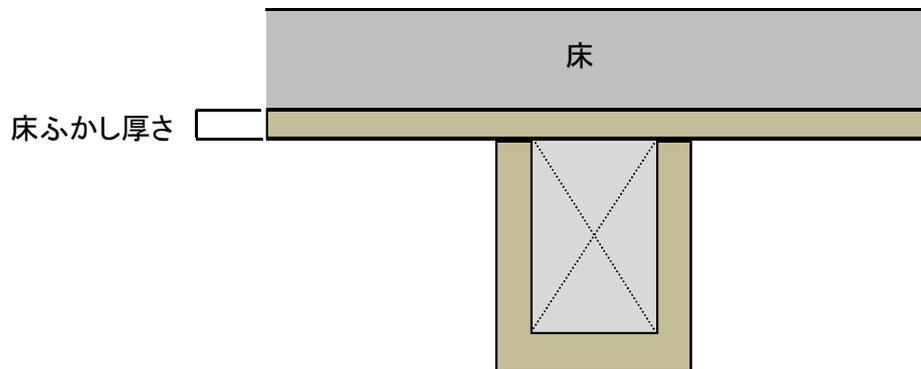
6 小梁



① 梁側が直接、床に接続しているタイプ(梁優先)



② 梁の上に床があるタイプ(床優先)



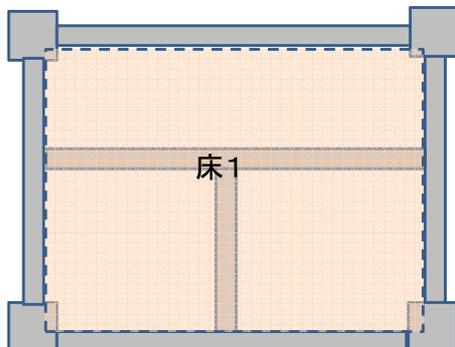
7 床

7.1 床の形状とタイプ

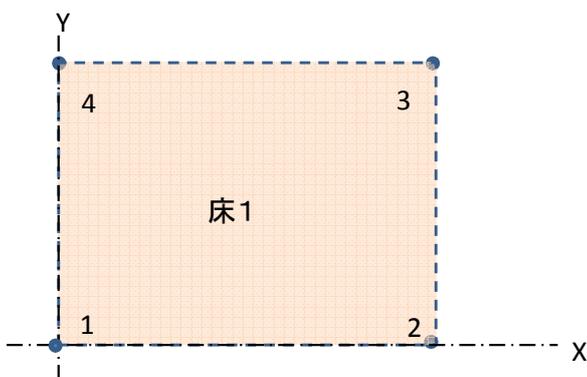
柱、梁、壁等で囲まれた多角形の平面プレートで把握し、その頂点を絶対座標でとらえる。
床は見下げの情報を設定する。

(1) 床の形状の把握

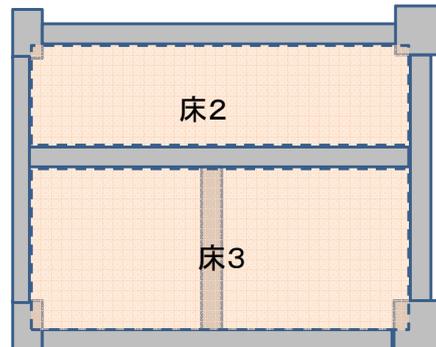
例1: 大梁で囲まれた床1



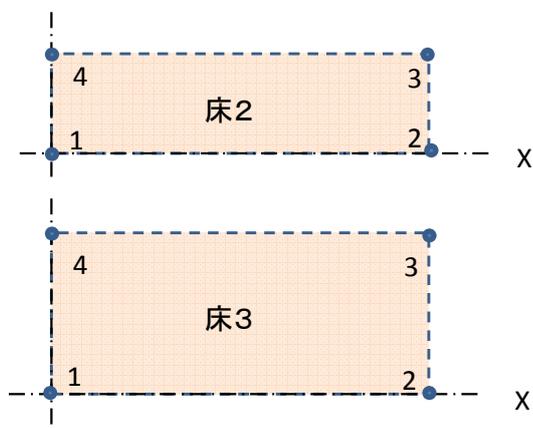
(注) 柱部の欠き込みは行わない



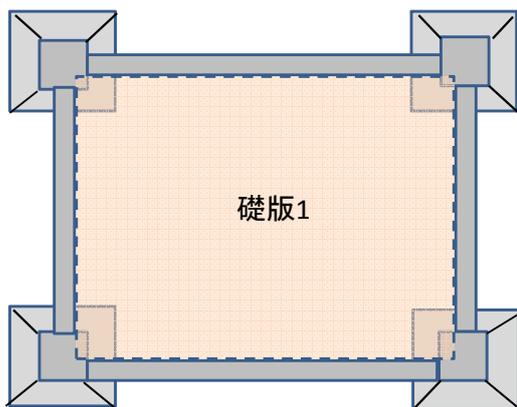
例2: 大梁と小梁で囲まれた床2、床3



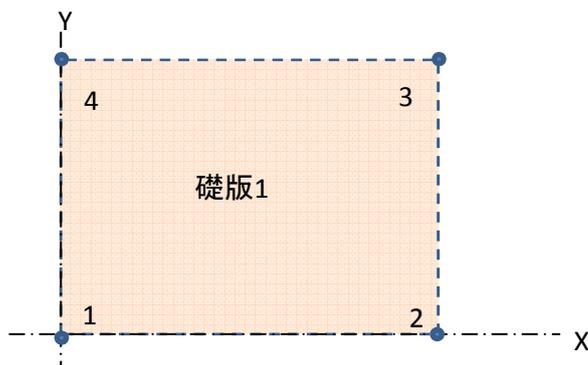
(注) 柱部の欠き込みは行わない



例3: 基礎、大梁で囲まれた礎版



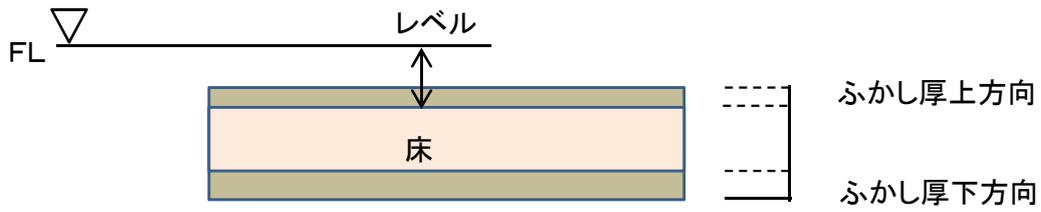
(注) 基礎部、柱部の欠き込みは行わない



頂点ポイントの設定は床と同じ

床の外形状の把握

床上面(ふかし厚部分は除く)の頂点を反時計回りに絶対座標で把握する。



(2) 床のタイプ

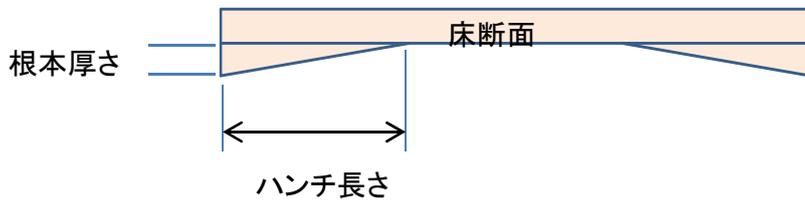
ストレート



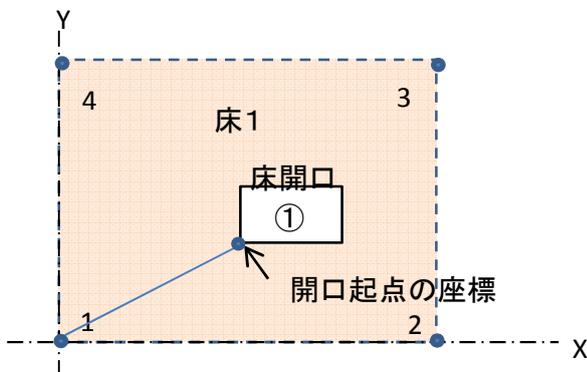
テーパ



ハンチ



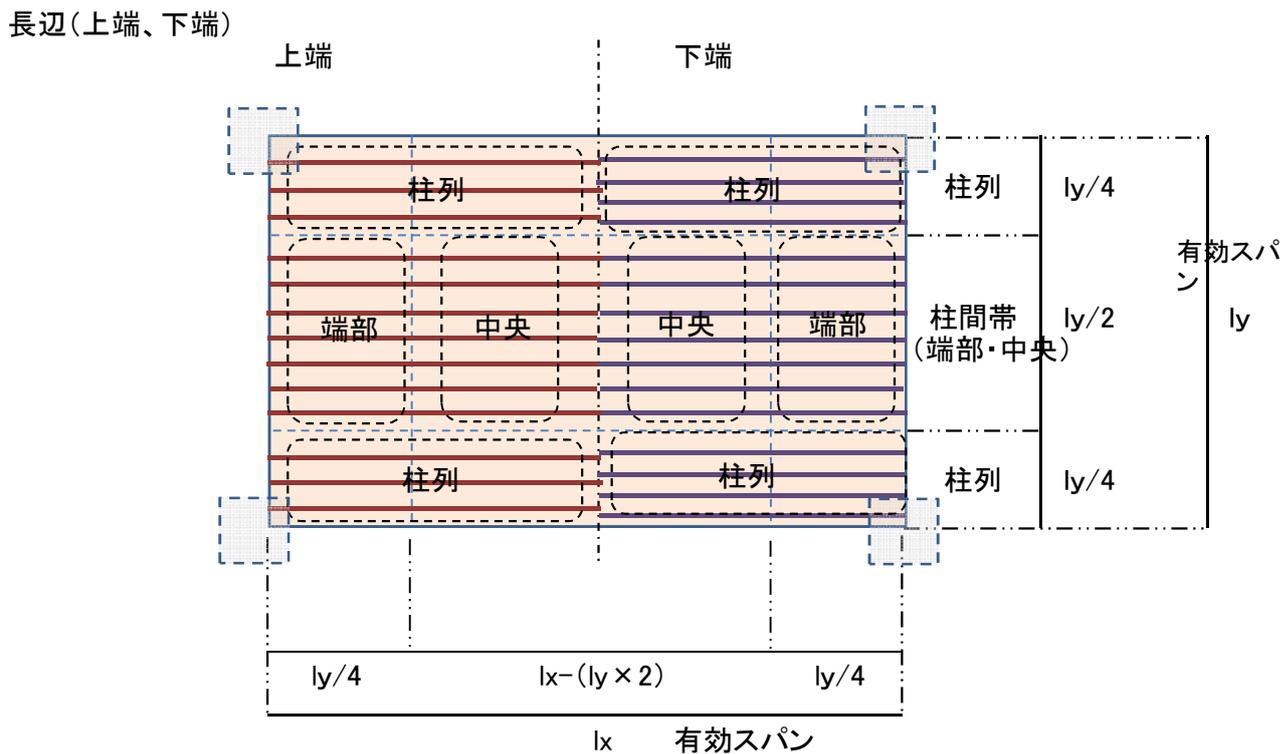
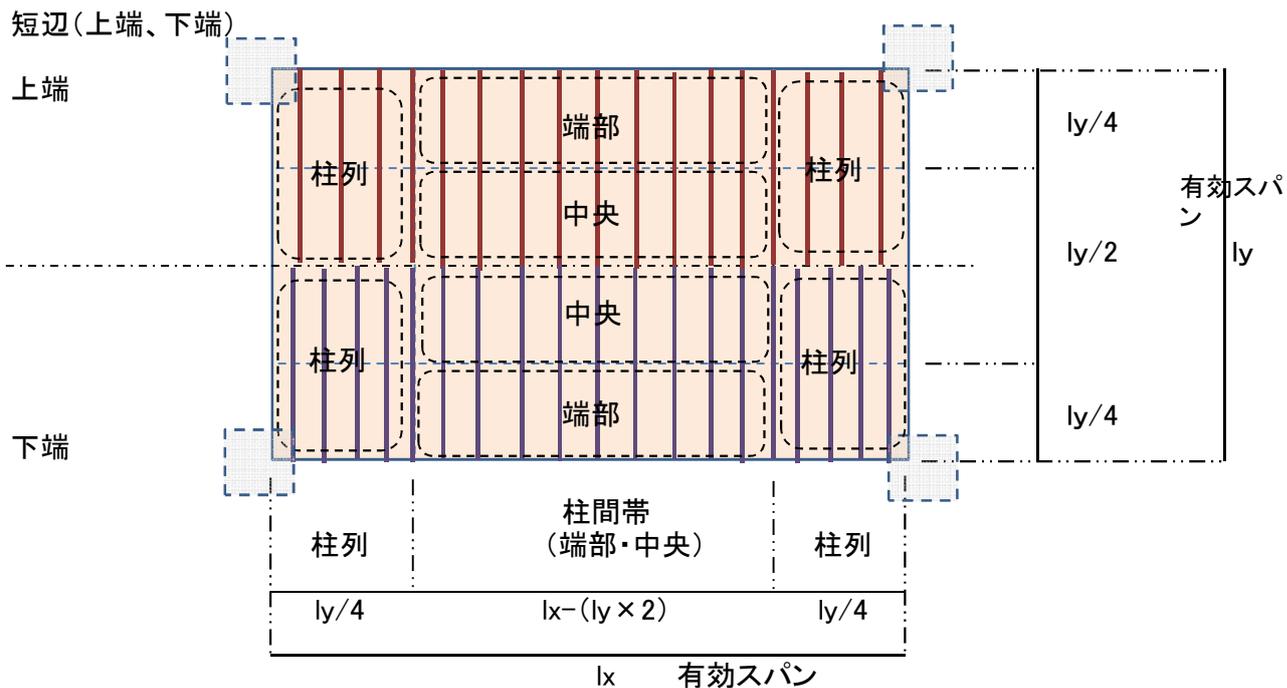
7.2 床開口



床開口位置の把握

1~2をX軸とし、1にX軸に直行するY軸を想定したxy座標における床開口の起点の座標を定義する

7.3 床の配筋



先端補強筋

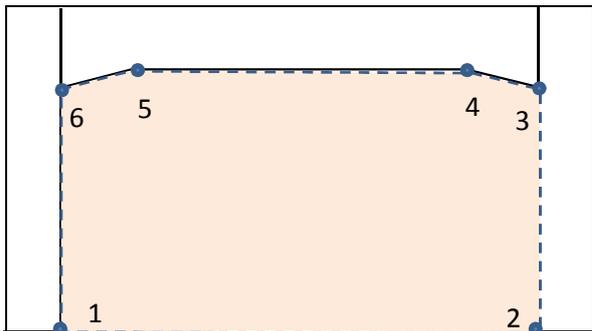
片持ちスラブ等の先端部に配置する鉄筋をいう



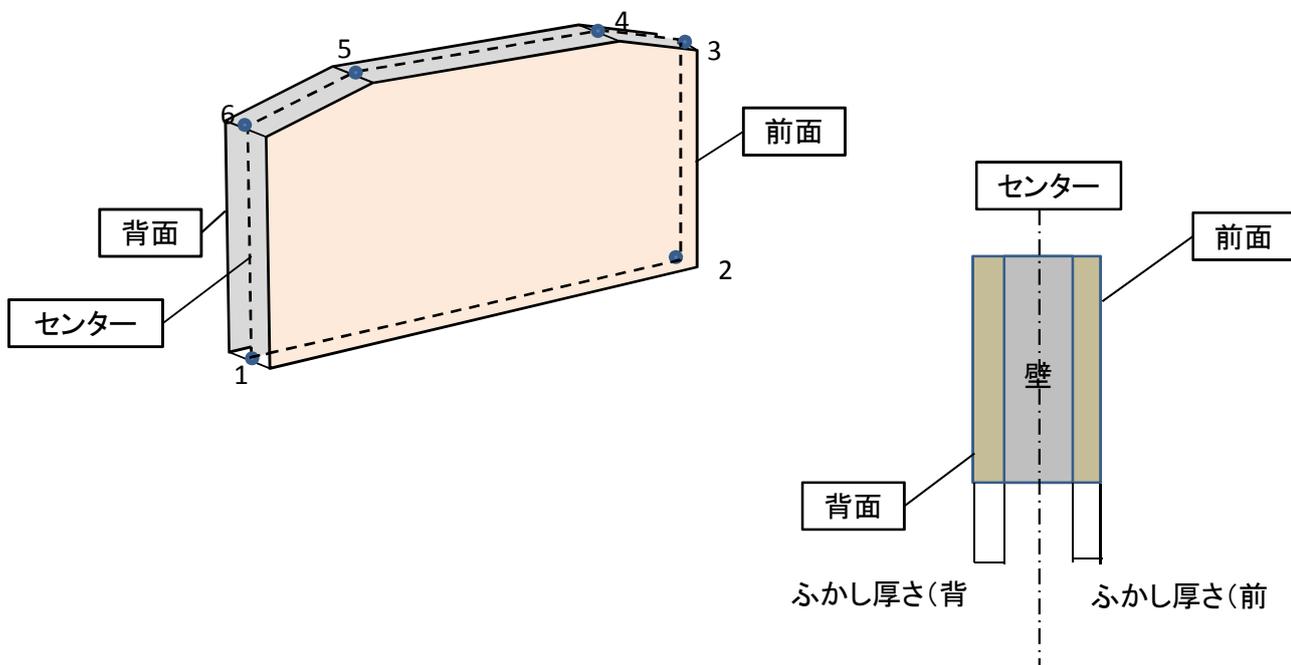
8 壁

8.1 壁の形状

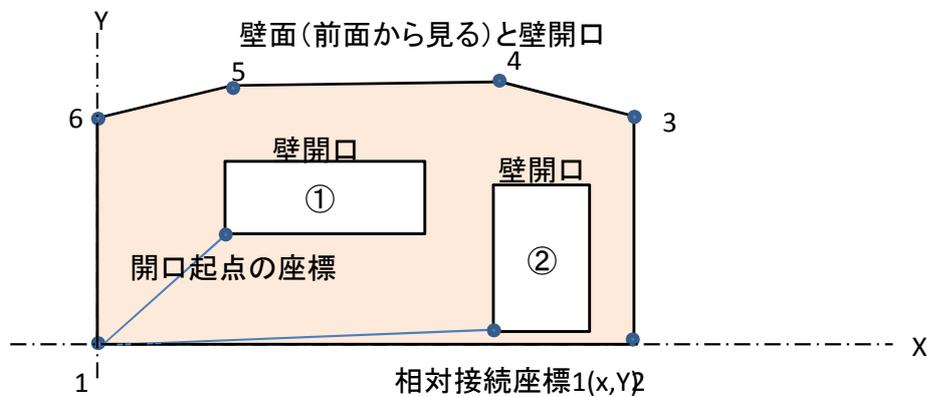
柱、大梁、小梁、壁等で囲まれた多角形の平面プレートで把握し、その頂点を座標でとらえる。



壁センター面の頂点座標ポイント
(前面から見て反時計回りで座標ポイントを指)

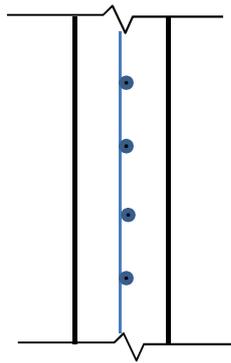


8.2 壁開口

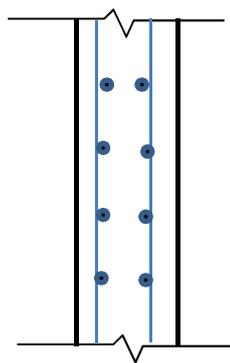


1~2をX軸とし、1にX軸に直行するY軸

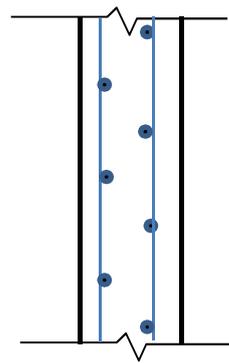
8.3 壁の配筋



シングル

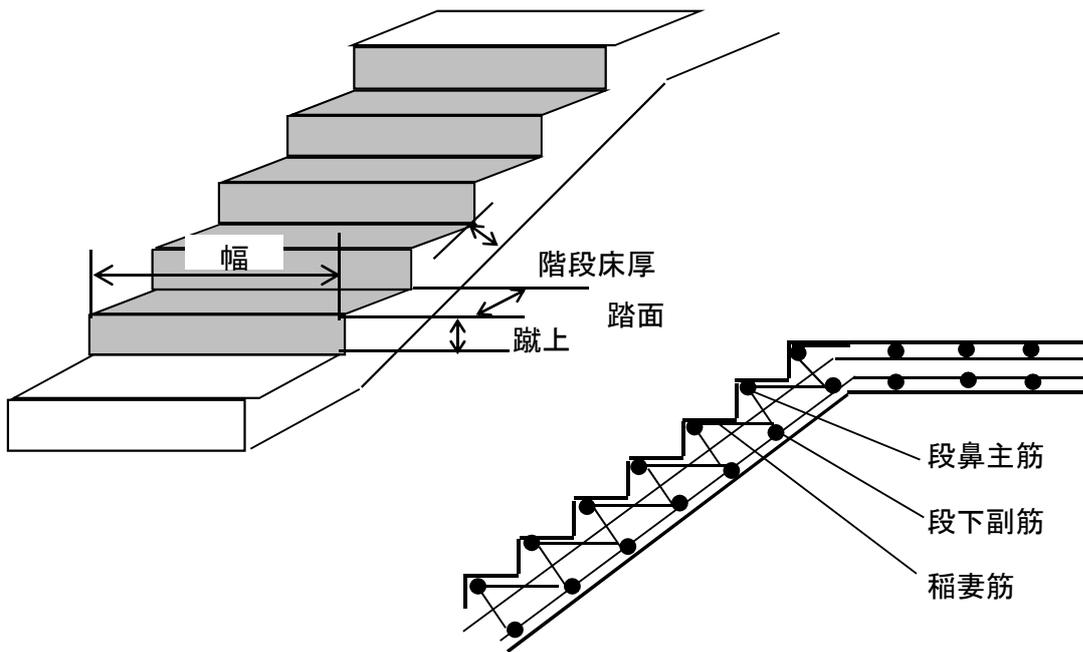


ダブル

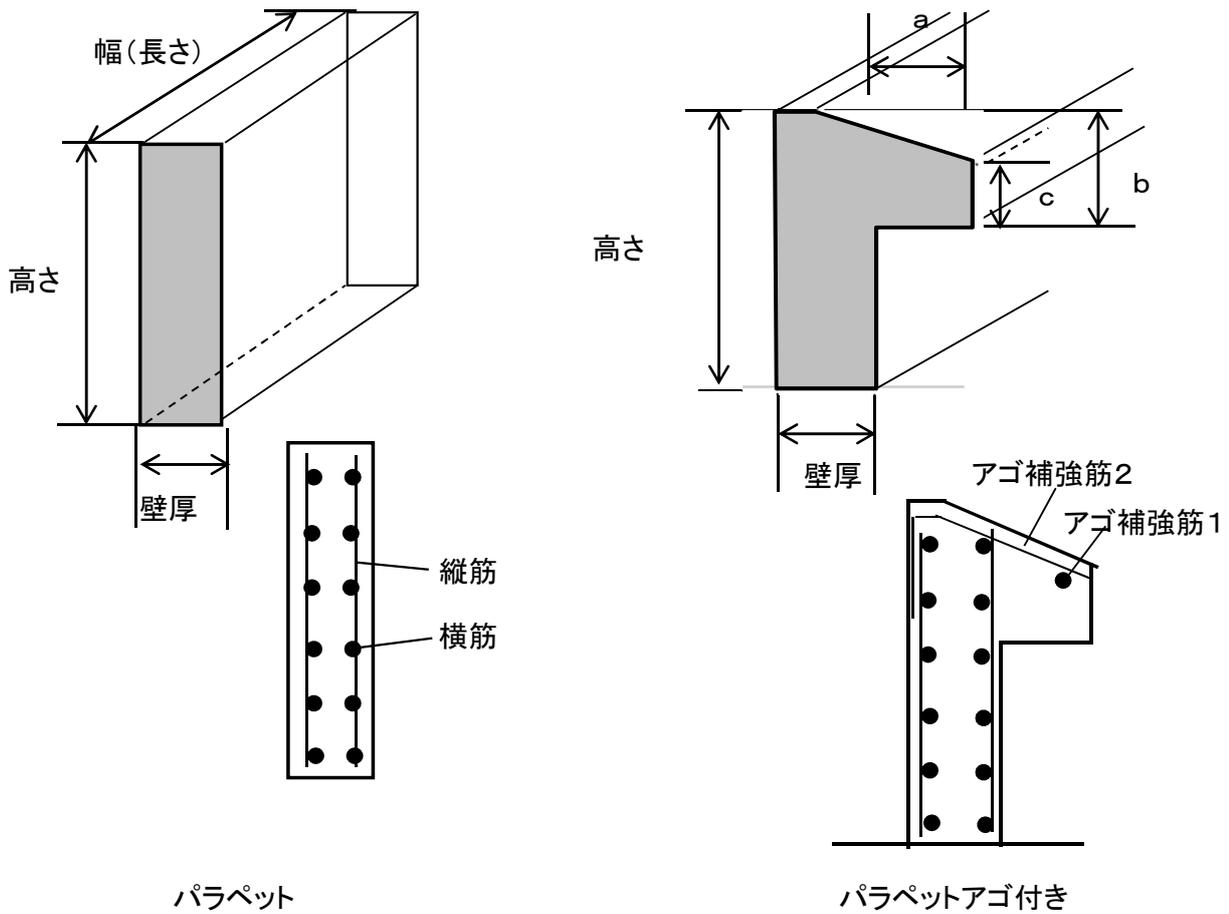


千鳥

9 雑
9.1 階段

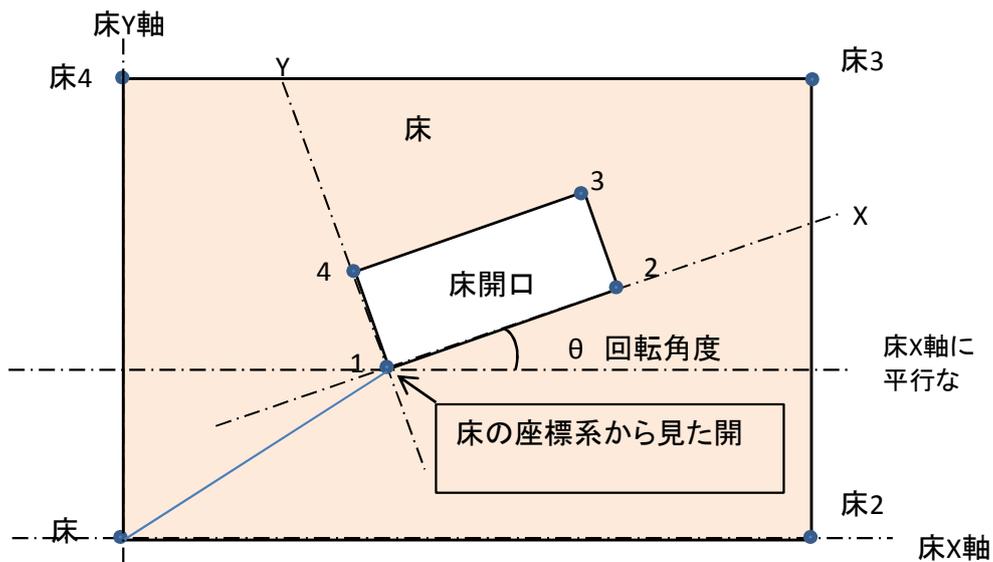


9.2 パラペット



9.3 その他雑
BIMツールからモデルデータを渡すのではなく、BIMツールで積算した結果を計上する。

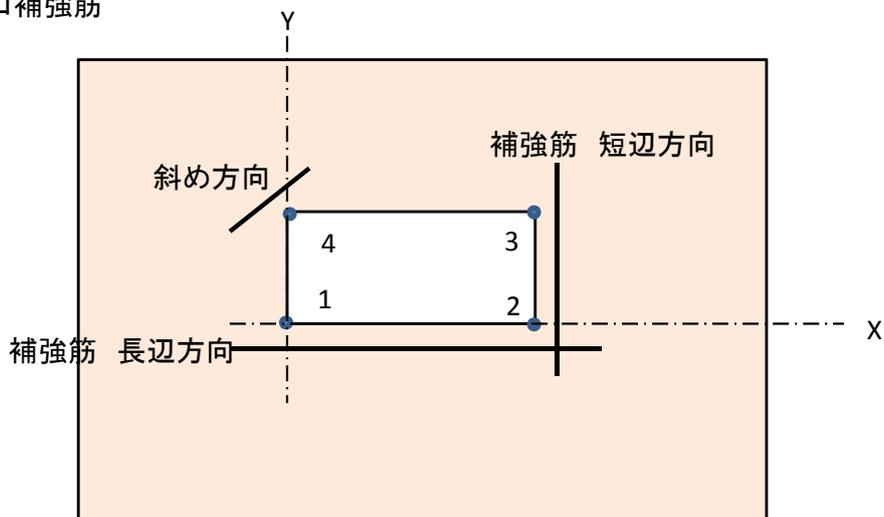
10 開口
10.1 床開口



床(見下げ)から見て、開口の相対座標を定義する。
頂点座標ポイントは反時計回りに定義する。

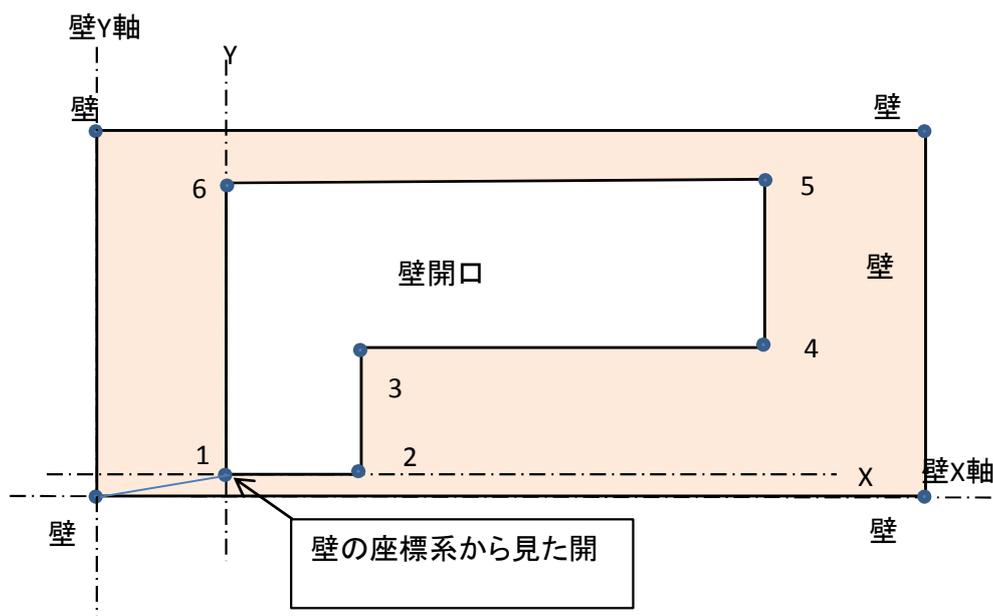
(例)開口のポイント1~2をX軸とし、ポイント1にX軸
に直行するY軸を想定して開口の相対座標を定義

床開口補強筋



10.2 壁開口

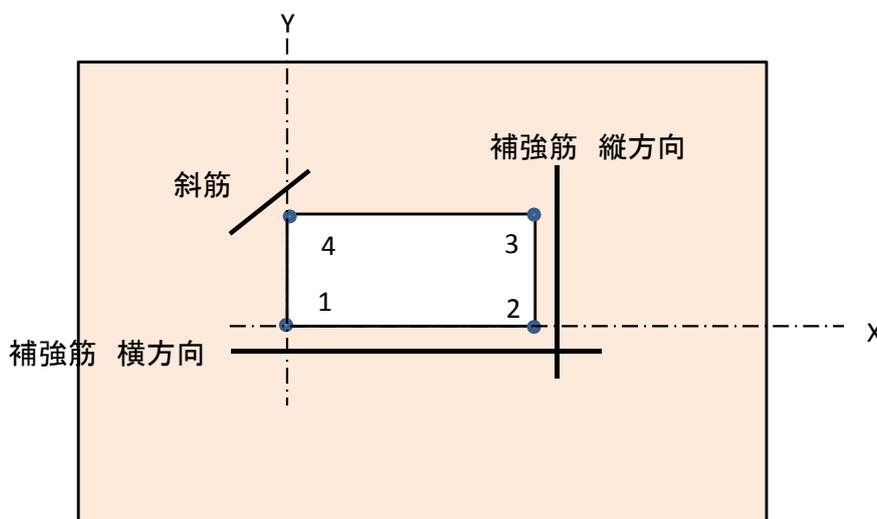
壁開口の把握の方法は、床開口の把握の方法と同じである。



壁(前面)から見て、開口の相対座標を定義する。頂点座標ポイントは反時計回りに定義する。

(例) 開口のポイント1~2をX軸とし、1にX軸に直行するY軸を想定して開口の相対座標を定義する

壁開口補強筋



11 テーブル定義書の解説

システム名
BS-Transfer(RC)

1 プロジェクト情報

テーブル名		プロジェクトの情報を定義する。	
1	プロジェクト		
No.	項目名称	解説	備考
1	BS-Transferバージョン	BS-Transfer/RCLAYOUTのバージョン名を設定する。	
2	プロジェクトコード	プロジェクトを識別する一意のコードを設定する。	
3	プロジェクト名	上記プロジェクトコードに対応するプロジェクトの名称を設定する。	
4	プロジェクト管理情報	上記プロジェクトを補足する各種の情報を設定する。	
5	データ作成日時	当ファイルデータの作成日時を設定する。	
6	データ作成ツール名	当ファイルデータを作成したCADツールの名称を設定する。	
7	データ作成ツールバージョン	上記CADツールのバージョン名を設定する。	
8	データ作成者	当ファイルデータの作成者の名称を設定する。	
9	軸・芯モード	当データの通り情報の構成方法を設定する。 1は通り軸(節点)で構成される。2は通り芯で構成される。4-2節点・通り芯交点情報の基準となる。	

2 棟情報

テーブル名		棟の情報を定義する。	
2	棟		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	当該物件の棟を構成する一意なコードを設定する。	
2	棟名称	上記棟区分に対応する棟の名称を設定する。	
3	建物用途	上記棟の建物用途名称を設定する。	
4	構造	上記棟の構造名称を設定する。	
5	地下階数	上記棟の地下階、地上階、塔屋階の階数を設定する。	
6	地上階数		
7	塔屋階数		
8	建築面積(m2)	上記棟の建築面積を設定する。	
9	延床面積(m2)	上記棟の延床面積を設定する。	

3 種別・材種情報

テーブル名		コンクリート、型枠、鉄筋などの種別・材種情報を定義する。	
3	種別・材種情報		
No.	項目名称	解説	備考
1	種別・材種区分	当該物件で使用される部材の区分を設定する。 1:コンクリート、2:型枠、3:鉄筋、4:継手、5:土工地上業、6:その他	
2	種別・材種コード	上記種別・材種区分毎に設けられた種別・材種のコードを設定する。	
3	種別・材種名称	上記種別・材種コードに対応する種別または部材の名称を設定する。	
4	種別・材種単位	上記種別・材種区分で、1;m3、2:m2、3:ton、4:か所とするが、5,6の場合固定にならない。固定にならない種別・材種の単位名称を設定する。	

システム名	
BS-Transfer(RC)	

4. 位置情報

テーブル名		階の情報を定義する。	
4-1	階構成		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2-No.1 棟区分」を指定する。	
2	階表示順コード	最下階から最上階まで1からnの数値を順番に割り当てる。	
3	階名称	上記階表示順コードに対応する階の名称を設定する。	
4	階高(mm)	階高を設定する。	
5	階区分	当該階の階区分を設定する。 1:地下階、2:地上階、3:塔屋	
6	中間階区分	当該階の中間階区分を設定する。 1:一般階、2:中間階	
7	コンクリート強度	当該階の代表的なコンクリート強度を、「3-No.2 種別・材種コード」の中から指定する。	

テーブル名		節点、または通り芯交点の情報を定義する。	
4-2	節点・通り芯交点情報		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2-No.1 棟区分」を指定する。	
2	節点・通り芯交点No.	全ての節点、または通り芯交点にユニークなナンバーを割り振る。	
3	X通り軸・芯No	上記の節点、または交点が起点の節点、または通り芯交点から何番目の位置にあるかを指定する。	
4	Y通り軸・芯No.	起点は最下階の左下に設定し (X通り軸・芯No、Y通り軸・芯No、階表示順コード)を(1,1,1)で示す。そこから各方向に軸が1増えるごとに1を加えた数値を設定する。	
5	階表示順コード		
6	絶対座標位置X方向(mm)	上記の節点、または通り芯交点の座標を原点からの座標で指定する。	
7	絶対座標位置Y方向(mm)		
8	絶対座標位置Z方向(mm)		
	ダミーの節点、または通り芯交点について	片持ち梁(大梁)などで先端側に節点、または通り芯交点が図面上に無いような場合は、ダミーの節点、または通り芯交点を設定する。間柱、小梁、床、壁の配置情報には絶対座標を指定するため、これらの部材の配置のために節点、または通り芯交点を設定する必要はない。	

テーブル名		通り軸、または通り芯の名称を定義する。	
4-3	通り軸・芯情報		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2-No.1 棟区分」を指定する。	
2	XY区分	X方向の通り軸・芯を定義する場合は:X Y方向の通り軸・芯を定義する場合は:Y を設定する。	
3	通り軸・芯No.	上記XY区分の方向に従い、X方向、またはY方向の通り軸・芯のNo.を指定する。	
4	通り軸・芯名称	上記通り軸・芯のNo.に相当する通り軸・芯の名称を指定する。	
5	距離(mm)	現在の通り軸・芯No.と次の通り軸・芯No.の間の距離を指定する。	

システム名

BS-Transfer(RC)

5. 部材配置情報

5-1 基礎

テーブル名		独立基礎部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-1-1	部材情報(独立基礎)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 11:独立基礎	
3	部材No.	独立基礎の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	記号	独立基礎の名称・記号(F1、F2、etc)を設定する。	
5	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
6	節点No.	該当する「4-2:No.2 節点・通り芯交点No.」を指定する。	
7	回転角度(°)	独立基礎の回転角度を指定する。	
8	断面情報No.	「6-1-1:No.3 断面情報No.」に設定した当該部材のナンバーを指定する。	
9	オフセットX方向(mm)	図芯から節点までのX方向のずれ寸法を設定する。	
10	オフセットY方向(mm)	図芯から節点までのY方向のずれ寸法を設定する。	
11	レベル(下)(mm)	節点より基礎下端までの寸法を設定する。	
12	ふかし厚X方向1(mm)	当該独立基礎のX方向(左側)ふかし厚さを設定する。	
13	ふかし厚X方向2(mm)	当該独立基礎のX方向(右側)ふかし厚さを設定する。	
14	ふかし厚Y方向1(mm)	当該独立基礎のY方向(手前側)ふかし厚さを設定する。	
15	ふかし厚Y方向2(mm)	当該独立基礎のY方向(奥側)ふかし厚さを設定する。	
16	ふかし厚上(mm)	当該独立基礎の上方向ふかし厚さを設定する。	
17	ふかし厚下(mm)	当該独立基礎の下方向ふかし厚さを設定する。	
18			
19			
20			

テーブル名		布基礎部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-1-2	部材情報(布基礎)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 12:布基礎	
3	部材No.	布基礎の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	記号	布基礎の名称・記号(F1、F2、etc)を設定する。	
5	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
6	開始節点絶対座標X方向(mm)	布基礎の開始節点の絶対座標を(x,y,z)で設定する。	
7	開始節点絶対座標Y方向(mm)		
8	開始節点絶対座標Z方向(mm)		
9	終了節点絶対座標X方向(mm)	布基礎の終了節点の絶対座標を(x,y,z)で設定する。	
10	終了節点絶対座標Y方向(mm)		
11	終了節点絶対座標Z方向(mm)		
12	断面情報No.	「6-1-2:No.3 断面情報No.」に設定した当該部材のナンバーを指定する。	
13	オフセット横方向(mm)	布基礎幅中心から節点までの横方向のずれ寸法を設定する。	
14	オフセットレベル(mm)	布基礎上端面から節点までの高さ方向のずれ寸法を設定する。	
15	レベル(下)(mm)	節点より基礎下端までの寸法を設定する。	
16	ふかし厚上(mm)	当該布基礎の上方向ふかし厚さを設定する。	
17	ふかし厚下(mm)	当該布基礎の下方向ふかし厚さを設定する。	
18	接続部材No.(始)	開始節点及び終了節点に接する相手部材(布基礎)の部材No.を設定する。	
19	接続部材No.(終)		
20			
21			
22			
23			

システム名

BS-Transfer(RC)

5-2 柱

テーブル名		柱部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-2-1	部材情報(柱)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択し設定する。	
3	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
4	部材No.	柱の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
5	記号	柱の名称・記号(C1 etc)を設定する。	
6	開始節点No.	当該柱部材が配置される位置の開始する節点を設定する。	
7	終了節点No.	当該柱部材が配置される位置の終了する節点を設定する。	
8	回転角度(°)	柱の回転角度を指定する。	
9	断面情報No.	「6-2-1:No.3 断面情報No.」に設定した当該部材のナンバーを指定す	
10	オフセットX方向(mm)	当該柱の節点または通り芯交点より図芯までのX方向、Y方向長さを	
11	オフセットY方向(mm)	設定する。	
12	ふかし厚X方向1(mm)	当該柱のふかし厚をX方向1・2、Y方向1・2に分けて設定する。	
13	ふかし厚X方向2(mm)		
14	ふかし厚Y方向1(mm)		
15	ふかし厚Y方向2(mm)		
16	型枠種別X方向1	当該柱の型枠種別コードをX方向1・2、Y方向1・2の面毎に設定する。	
17	型枠種別X方向2		
18	型枠種別Y方向1		
19	型枠種別Y方向2		
20	接続部位区分(上)	当該柱の上(終点)に接続する部位の部位区分、部材No.を設定する。	
21	接続部材No.(上)		
22	接続部位区分(下)	当該柱の下(始点)に接続する部位の部位区分、部材No.を設定する。	
23	接続部材No.(下)		
24	間柱絶対座標位置X方向(始)(mm)	部位区分が間柱の場合、始点のX方向、Y方向、Z方向の座標を設定	
25	間柱絶対座標位置Y方向(始)(mm)	する。	
26	間柱絶対座標位置Z方向(始)(mm)		
27	間柱絶対座標位置X方向(終)(mm)	部位区分が間柱の場合、終点のX方向、Y方向、Z方向の座標を設定	
28	間柱絶対座標位置Y方向(終)(mm)	する。	
29	間柱絶対座標位置Z方向(終)(mm)		

システム名

BS-Transfer(RC)

5-3 梁

テーブル名		梁部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-3-1	部材情報(梁)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2.No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 31:基礎大梁、32:基礎小梁、33大梁、34小梁	
3	階表示順コード	該当する「4-1.No.2 階表示順コード」を指定する。	
4	部材No.	梁の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
5	記号	梁の名称・記号(G1,G2,G3・・・etc)を設定する。	
6	開始節点No	大梁は節点No、小梁はNo.9～No.11に絶対座標を入力する。	
7	終了節点No	大梁は節点No、小梁はNo.12～No.14に絶対座標を入力する。	
8	断面情報No.	「6-3-1.No.4 断面情報No.」に設定した当該部材のナンバーを指定する。	
9	絶対座標位置X方向(始)(mm)	小梁の始端の絶対座標(x,y,z)を設定する。	
10	絶対座標位置Y方向(始)(mm)		
11	絶対座標位置Z方向(始)(mm)		
12	絶対座標位置X方向(終)(mm)		小梁の終端の絶対座標(x,y,z)を設定する。
13	絶対座標位置Y方向(終)(mm)		
14	絶対座標位置Z方向(終)(mm)		
15	オフセット横方向(mm)	梁天端中心より節点までの横方向ずれ寸法を設定する。	
16	オフセットレベル(mm)	梁天端中心より節点までの縦方向ずれ寸法を設定する。	
17	ふかし厚上方向(mm)	当該梁断面の上方向ふかし厚さを設定する。	
18	ふかし厚下方向(mm)	当該梁断面の下方向ふかし厚さを設定する。	
19	ふかし厚左方向(mm)	当該梁断面の左方向ふかし厚さを設定する。	
20	ふかし厚右方向(mm)	当該梁断面の右方向ふかし厚さを設定する。	
21	型枠種別下面	3.種別・材種情報を参照する。	
22	型枠種別左面	3.種別・材種情報を参照する。	
23	型枠種別右面	3.種別・材種情報を参照する。	
24	垂直ハンチ成(始)(mm)	梁始端からの垂直ハンチ成の寸法を設定する。	
25	垂直ハンチ長さ(始)(mm)	梁始端からの垂直ハンチ長さの寸法を設定する。	
26	水平ハンチ巾(始)(mm)	梁始端からの水平ハンチ巾の寸法を設定する。	
27	水平ハンチ長さ(始)(mm)	梁始端からの水平ハンチ長さの寸法を設定する。	
28	水平ハンチタイプ(始)(mm)	1.両方、2.左のみ、3.右のみ	
29	垂直ハンチ成(終)(mm)	梁終端からの垂直ハンチ成の寸法を設定する。	
30	垂直ハンチ長さ(終)(mm)	梁終端からの垂直ハンチ長さの寸法を設定する。	
31	水平ハンチ巾(終)(mm)	梁終端からの水平ハンチ巾の寸法を設定する。	
32	水平ハンチ長さ(終)(mm)	梁終端からの水平ハンチ長さの寸法を設定する。	
33	水平ハンチタイプ(終)(mm)	1.両方、2.左のみ、3.右のみ	
34	接続部位区分(始)	梁部材の当該線分部が接する相手部材(例:柱や梁)の部位区分、部材No.を設定する。	
35	接続部材No.(始)		
36	接続部位区分(終)		
37	接続部材No.(終)		
38	梁上部形式	梁上部の床部分の形態を定義する。 1: 梁優先、2: 床優先	
39	床部材No	No.38が2:床優先の場合、床部材No.を設定する。	

システム名
BS-Transfer(RC)

5-4 床

テーブル名		床部材にユニークな番号を付けて登録する。	
5-4-1	部材情報(床)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 41:床、42:礎版、43:土間	
3	部材No.	床の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	記号	床の名称・記号(S1、FS1、etc)を設定する。	
5	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
6	断面情報No.	「6-4-1:No.3 断面情報No.」に設定した当該部材のナンバーを指定する。	
7	集計先部位区分	当該部材の積算結果を他の部位に計上する場合、計上先の部位区分を指定する。	

テーブル名		床部材の外形状の構成線分を、始点、終点の絶対座標で把握する。		
5-4-2	部材情報(床座標)			
No.	項目名称	解説	備考	
1	棟区分	「5-4-1 No.1~3」で指定した床部材を設定する。		
2	部位区分			
3	部材No.			
4	座標構成No.	当該床部材の頂点に反時計回りで1~nの番号を割り当てる。		
5	絶対座標位置X方向(始)(mm)	上記の頂点のから見て反時計回りの次の頂点の絶対座標を(x,y,z)で設定する。		
6	絶対座標位置Y方向(始)(mm)			
7	絶対座標位置Z方向(始)(mm)			
8	絶対座標位置X方向(終)(mm)			
9	絶対座標位置Y方向(終)(mm)			
10	絶対座標位置Z方向(終)(mm)			
11	形状タイプ		当該頂点と次の頂点の床底線分の形状を以下の中から選んで設定する。	
12	床根元厚さ(mm)		No.10で、2:テーパ(根本厚さを持つ)、3:スラブハンチを設定した時に根本厚さを指定する。	
13	ハンチ長さ(mm)		No.11で、3:スラブハンチを設定した時にハンチ長さを指定する。	
14	接続部位区分		床部材の当該線分が接する相手部材(例:壁や梁)の部位区分、部材No.を設定する。	
15	接続部材No.			

テーブル名		床部材に開口がある場合、当該床部材と開口情報の関係を定義する。	
5-4-3	部材情報(床開口)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	「5-4-1 No.1~3」で指定した床部材を設定する。	
2	部位区分		
3	部材No.		
4	開口構成No.	床開口があるとき、個別に1~nの識別番号を付ける。	
5	開口情報No.	当該床開口の「7-1:No.3 開口情報No.」を設定する。	
6	開口起点のX座標(mm)	床の頂点1を(0,0)とするx、y座標をから見て、開口の頂点1の座標を(x,y)で指定する。	
7	開口起点のY座標(mm)		
8	回転角度(°)	開口の回転角度を指定する。	

システム名
BS-Transfer(RC)

5-5 壁

テーブル名		壁部材にユニークな番号を付けて登録する。	
5-5-1	部材情報(壁)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 51:壁、52:腰壁、53:下がり壁、54:擁壁	
3	部材No.	壁の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	記号	壁の名称・記号(W1、W2、etc)を設定する。	
5	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
6	断面情報No.	「6-5-1:No.3 断面情報No.」に設定した当該部材のナンバーを指定する。	
7	集計先部位区分	当該部材の積算結果を他の部位に計上する場合、計上先の部位区分を指定する。	

テーブル名		壁部材の外形状の構成線分を、始点、終点の絶対座標で把握する。	
5-5-2	部材情報(壁座標)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	「5-5-1 No.1~3」で指定した壁部材を設定する。	
2	部位区分		
3	部材No.		
4	座標構成No.	当該壁部材の頂点に反時計回りで1~nの番号を割り当てる。	
5	絶対座標位置X方向(始)(mm)	頂点の絶対座標を(x,y,z)で設定する。	
6	絶対座標位置Y方向(始)(mm)		
7	絶対座標位置Z方向(始)(mm)		
8	絶対座標位置X方向(終)(mm)		
9	絶対座標位置Y方向(終)(mm)	上記の頂点のから見て反時計回りの次の頂点の絶対座標を(x,y,z)で設定する。	
10	絶対座標位置Z方向(終)(mm)		
11	接続部位区分	壁部材の当該線分部が接する相手部材(例:壁や梁)の部位区分、部材No.を設定する。また、接続部位の階表示順コードが壁本体と異なる場合は、その階表示順コードを指定する。	
12	階表示順コード		
13	接続部材No.		

テーブル名		壁部材に開口がある場合、当該壁部材と開口情報の関係を定義する。	
5-5-3	部材情報(壁開口)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	「5-5-1 No.1~3」で指定した壁部材を設定する。	
2	部位区分		
3	部材No.		
4	開口構成No.	壁開口があるとき、個別に1~nの識別番号を付ける。	
5	開口情報No.	当該床開口の「7-1:No.3 開口情報No.」を設定する。	
6	開口起点のX座標(mm)	壁の頂点1を(0,0)とするx、y座標をから見て、開口の頂点1の座標を(x,y)で指定する。	
7	開口起点のY座標(mm)		
8	回転角度(°)	開口の回転角度を指定する。	

システム名

BS-Transfer(RC)

5-6 雑

テーブル名		階段部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-6-1	部材情報(階段)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を設定する。 61:階段(雑)	
3	部材No.	階段の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	記号	階段の名称・記号を設定する。	
5	階表示順コード	該当する「4-1:No2 階表示順コード」を指定する。	
6	コンクリート強度	当該階段のコンクリート強度を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	型枠種別(底)	当該階段の底、踏面、蹴上、ささらの型枠種別コードを設定する。	
8	型枠種別(踏面)		
9	型枠種別(蹴上)		
10	型枠種別(ささら)		
11	幅(mm)	当該階段の幅長さを設定する。	
12	蹴上(mm)	当該階段の蹴上高さを設定する。	
13	踏面(mm)	当該階段の踏面長さを設定する。	
14	段数	当該階段の段数を設定する。	
15	階段床厚(mm)	当該階段の階段床厚を設定する。	
16	段鼻主筋_材種	段鼻主筋の材種、径、本数を設定する。	
17	段鼻主筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
18	段鼻主筋_本数		
19	段下副筋_材種	段下主筋の材種、径、本数を設定する。	
20	段下副筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
21	段下副筋_本数		
22	稲妻筋_材種	稲妻筋の材種、径、ピッチ長さを設定する。	
23	稲妻筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
24	稲妻筋_ピッチ(mm)		
25	配力筋_材種	配力筋の材種、径、ピッチ長さを設定する。	
26	配力筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
27	配力筋_ピッチ(mm)		
28	段受筋_材種	段受筋の材種、径、本数を設定する。	
29	段受筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
30	段受筋_本数		
31			
32			
33			

システム名
BS-Transfer(RC)

テーブル名	パラペット部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-6-2 部材情報(パラペット)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を設定する。 62:パラペット(雑)	
3	部材No.	パラペットの部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	記号	パラペットの名称・記号を設定する。	
5	階表示順コード	該当する「4-1:No2 階表示順コード」を指定する。	
6	コンクリート強度	当該パラペットのコンクリート強度を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	型枠種別(前面)	当該パラペットの前面、背面の型枠種別コードを設定する。	
7	型枠種別(背面)		
8	タイプ	当該パラペットの形状タイプを設定する。 1:パラペット、2:パラペットアゴ付き	
9	高さ(mm)	当該パラペットの高さを設定する。	
10	幅(長さ)(mm)	当該パラペットの幅(長さ)を設定する。	
11	壁厚(mm)	当該パラペットの壁厚を設定する。	
12	アゴ_a(mm)	タイプが2:パラペットアゴ付きの場合、アゴ_a、アゴ_b、アゴ_cの長さを設定する。	
13	アゴ_b(mm)		
14	アゴ_c(mm)		
15	縦筋1_材種	縦筋1の材種、径、ピッチ長さを設定する。	
16	縦筋1_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
17	縦筋1_ピッチ(mm)		
18	縦筋2_材種	縦筋2の材種、径、ピッチ長さを設定する。	
19	縦筋2_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
20	縦筋2_ピッチ(mm)		
21	横筋1_材種	横筋1の材種、径、ピッチ長さを設定する。	
22	横筋1_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
23	横筋1_ピッチ(mm)		
24	横筋2_材種	横筋2の材種、径、ピッチ長さを設定する。	
25	横筋2_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
26	横筋2_ピッチ(mm)		
27	縦補強筋_材種	縦筋補強筋の材種、径、本数を設定する。	
28	縦補強筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
29	縦補強筋_本数		
30	横補強筋_材種	横筋補強筋の材種、径、本数を設定する。	
31	横補強筋_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
32	横補強筋_本数		
33	アゴ補強筋1_材種	アゴ補強筋1の材種、径、本数を設定する。	
34	アゴ補強筋1_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
35	アゴ補強筋1_本数		
36	アゴ補強筋2_材種	アゴ補強筋2の材種、径、本数を設定する。	
37	アゴ補強筋2_径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
38	アゴ補強筋2_ピッチ(mm)		

システム名
BS-Transfer(RC)

テーブル名	その他雑部材にユニークな番号を付けて登録する。
5-6-3 部材情報(その他雑)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を設定する。 63:その他雑	
3	部材No.	その他雑の部材毎にユニークな番号を割り振る。	
4	階表示順コード	該当する「4-1:No2 階表示順コード」を指定する。	
5	集計先部位区分	当該部材の積算結果を他の部位に計上する場合、計上先の部位区分を指定する。	

テーブル名	その他雑部材の積算結果の品名・摘要を登録する。
5-6-3-1 その他雑部材名称・仕様	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	「5-6-3 No.1～3」で指定したその他雑部材を設定する。	
2	部位区分		
3	部材No.		
4	補助明細コード	上記部材No.で作成されるその他雑部材を構成する、規格・仕様・摘要行の構成No.(00～49)を設定する。	
5	建設資機材コード	CI-NETの「1279 建設資機材コード」を設定する。	
6	品名・名称1	その他雑部材の品名・名称を設定する。	
7	品名・名称2		
8	規格・仕様・摘要1	その他雑部材の規格・仕様・摘要を設定する。	
9	規格・仕様・摘要2		

テーブル名	その他雑部材の積算数量を登録する。
5-6-3-2 その他雑 部材構成	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	「5-6-3 No.1～3」で指定したその他雑部材を設定する。	
2	部位区分		
3	部材No.		
4	雑部材内訳No.	上記部材No.で作成されるその他雑部材の積算数量行の明細No.を設定する。(1～)	
5	種別・材種区分／コンクリート	コンクリートの種別・材種区分コード、コンクリート強度コード、コンクリート数量を設定する。	
6	コンクリート強度		
7	コンクリート数量(m3)		
8	種別・材種区分／型枠	型枠の種別・材種区分コード、型枠種別コード、型枠数量を設定する。	
9	型枠種別		
10	型枠数量(m2)		
11	種別・材種区分／鉄筋	鉄筋の種別・材種区分コード、鉄筋材種コード、鉄筋径、鉄筋数量を設定する。	
12	鉄筋材種		
13	鉄筋径		
14	鉄筋数量(t)		
15	その他種別・材種区分	その他の雑の種別・材種区分コード、種別・材種コード、数量、単位を設定する。	
16	その他種別・材種コード		
17	その他数量		
18			

システム名

BS-Transfer(RC)

6 断面情報

6-1 基礎

テーブル名		独立基礎の断面情報を定義する。	
6-1-1	断面情報(独立基礎)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 11:独立基礎	
3	断面情報No.	独立基礎の配筋等の断面情報を識別するために、ユニークな情報ごとに識別番号を設定する。	
4	記号	No.3の識別名称・記号を設定する。	
5	コンクリート強度	当該独立基礎断面のコンクリート強度を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
6	型枠種別	当該独立基礎断面の型枠種別を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	形状	当該独立基礎の形状を指定する。 1:矩形、2:矩形テーパ、3:三角形	
8	断面寸法X方向1(mm)	当該独立基礎断面のX方向の寸法を設定する。	
9	断面寸法Y方向1(mm)	当該独立基礎断面のY方向の寸法を設定する。	
10	断面寸法高さ1(mm)	当該独立基礎断面の高さ寸法を設定する。	
11	断面寸法X方向2(mm)	形状が2:矩形テーパの場合、テーパ部分のX方向の寸法を設定する。	
12	断面寸法Y方向2(mm)	形状が2:矩形テーパの場合、テーパ部分のY方向の寸法を設定する。	
13	断面寸法高さ2(mm)	形状が2:矩形テーパの場合、テーパ部分の高さの寸法を設定する。	
14	X方向ベース筋1材種	独立基礎のX方向ベース筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
15	X方向ベース筋1径(mm)		
16	X方向ベース筋1本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
17	X方向ベース筋1ピッチ(mm)		
18	Y方向ベース筋2材種	独立基礎のY方向ベース筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
19	Y方向ベース筋2径(mm)		
20	Y方向ベース筋2本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
21	Y方向ベース筋2ピッチ(mm)		
22	斜筋材種	独立基礎の斜め方向ベース筋の鉄筋の材種、径、本数を設定する。	
23	斜筋径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
24	斜筋本数		
25	X方向ハカマ筋1材種	独立基礎のX方向ハカマ筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
26	X方向ハカマ筋1径(mm)		
27	X方向ハカマ筋1本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
28	X方向ハカマ筋1ピッチ(mm)		
29	Y方向ハカマ筋2材種	独立基礎のY方向ハカマ筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
30	Y方向ハカマ筋2径(mm)		
31	Y方向ハカマ筋2本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
32	Y方向ハカマ筋2ピッチ(mm)		
33	横筋材種	独立基礎の横筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
34	横筋径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
35	横筋本数		
36	横筋ピッチ(mm)	径は該当する鉄筋の鉄筋径を設定する。	
37	巾止筋材種	独立基礎の巾止筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
38	巾止筋径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
39	巾止筋本数		
40	巾止筋ピッチ(mm)	径は該当する鉄筋の鉄筋径を設定する。	
41			
42			
43			

システム名

BS-Transfer(RC)

テーブル名		布基礎の断面情報を定義する。	
6-1-2	断面情報(布基礎)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 12:布基礎	
3	断面情報No.	布基礎の配筋等の断面情報を識別するために、ユニークな情報ごとに識別番号を設定する。	
4	記号	No.3の識別名称・記号を設定する。	
5	コンクリート強度	当該布基礎断面のコンクリート強度を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
6	型枠種別	当該布基礎断面の型枠種別を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	形状	当該布基礎の形状を指定する。 1:矩形、2:矩形テーパ、3:矩形(基礎梁あり)、4:矩形テーパ(基礎梁	
8	断面寸法幅方向1(mm)	当該布基礎断面の幅方向の寸法を設定する。	
9	断面寸法幅方向2(mm)	形状が2・4:矩形テーパの場合、テーパ部分の幅方向の寸法を設定する。	
10	断面寸法高さ1(mm)	当該布基礎断面の高さ寸法を設定する。	
11	断面寸法高さ2(mm)	形状が2・4:矩形テーパの場合、テーパ部分の高さ寸法を設定する。	
12	主筋方向ベース筋1材種	布基礎の主筋方向ベース筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
13	主筋方向ベース筋1径(mm)		
14	主筋方向ベース筋1本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
15	主筋方向ベース筋1ピッチ(mm)		
16	配力筋方向ベース筋2材種	布基礎の配力筋方向ベース筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
17	配力筋方向ベース筋2径(mm)		
18	配力筋方向ベース筋2本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
19	配力筋方向ベース筋2ピッチ(mm)		
20	主筋方向ハカマ筋1材種	布基礎の主筋方向ハカマ筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
21	主筋方向ハカマ筋1径(mm)		
22	主筋方向ハカマ筋1本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
23	主筋方向ハカマ筋1ピッチ(mm)		
24	配力筋方向ハカマ筋2材種	布基礎の配力筋方向ハカマ筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
25	配力筋方向ハカマ筋2径(mm)		
26	配力筋方向ハカマ筋2本数	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
27	配力筋方向ハカマ筋2ピッチ(mm)		
28	横筋材種	布基礎の横筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
29	横筋径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
30	横筋本数		
31	横筋ピッチ(mm)	径は該当する鉄筋の鉄筋径を設定する。	
32	巾止筋材種	布基礎の巾止筋の鉄筋の材種、径、本数及びピッチを設定する。	
33	巾止筋径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
34	巾止筋本数		
35	巾止筋ピッチ(mm)	径は該当する鉄筋の鉄筋径を設定する。	
36			
37			
38			

システム名
BS-Transfer(RC)

6-2 柱

テーブル名	柱部材の断面情報を定義する。
6-2-1	断面情報(柱)

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択し設定する。 21:柱、22:間柱	
3	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
4	断面情報No.	柱の配筋等の断面情報を識別するために、ユニークな情報ごとに識別番号を設定する。	
5	記号	柱の名称・記号(C1 etc)を設定する。	
6	コンクリート強度	当該柱断面のコンクリート強度コードを設定する。	
7	柱形状	以下の柱形状区分を選択し設定する。 1:矩形、2:円柱	
8	断面寸法X方向(mm)	当該柱のX方向長さ、Y方向長さを設定する。柱形状が円柱の場合、	
9	断面寸法Y方向(mm)	直径長さをX方向に設定する。	
10	柱頭主筋1材種	柱頭部の主筋1の材種、径、本数を設定する。	
11	柱頭主筋1径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
12	柱頭主筋1本数		
13	柱頭主筋2材種	柱頭部の主筋2の材種、径、本数を設定する。	
14	柱頭主筋2径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
15	柱頭主筋2本数		
16	柱頭主筋3材種	柱頭部の主筋3の材種、径、本数を設定する。	
17	柱頭主筋3径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
18	柱頭主筋3本数		
19	柱頭主筋4材種	柱頭部の主筋4の材種、径、本数を設定する。	
20	柱頭主筋4径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
21	柱頭主筋4本数		
22	柱脚主筋1材種	柱脚部の主筋1の材種、径、本数を設定する。	
23	柱脚主筋1径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
24	柱脚主筋1本数		
25	柱脚主筋2材種	柱脚部の主筋2の材種、径、本数を設定する。	
26	柱脚主筋2径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
27	柱脚主筋2本数		
28	柱脚主筋3材種	柱脚部の主筋3の材種、径、本数を設定する。	
29	柱脚主筋3径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
30	柱脚主筋3本数		
31	柱脚主筋4材種	柱脚部の主筋4の材種、径、本数を設定する。	
32	柱脚主筋4径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
33	柱脚主筋4本数		
22	フープ筋一般材種	フープ筋の材種、径、ピッチ長さ、またはX方向中子本数、Y方向中子本数を設定する。	
23	フープ筋一般径		
24	フープ筋一般ピッチ	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
25	フープ筋一般X方向中子本数		
26	フープ筋一般Y方向中子本数		
27	フープ筋仕口材種	仕口のフープ筋の材種、径、ピッチ長さ、またはX方向中子本数、Y方向中子本数を設定する。	
28	フープ筋仕口径		
29	フープ筋仕口ピッチ	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
30	フープ筋仕口X方向中子本数		
31	フープ筋仕口Y方向中子本数		
32	ダイヤフープ材種	ダイヤフープ筋の材種、径、ピッチ長さ、またはX方向本数、Y方向本数を設定する。	
33	ダイヤフープ径		
34	ダイヤフープピッチ	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
35	ダイヤフープX方向本数		
36	ダイヤフープY方向本数		
37	補強筋1材種	補強筋1の材種、径、長さ、本数を設定する。	
38	補強筋1径	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
39	補強筋1長さ		
40	補強筋1本数		
41	補強筋2材種	補強筋2の材種、径、長さ、本数を設定する。	

システム名	
BS-Transfer(RC)	

42	補強筋2径	材種は「3:No2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。
43	補強筋2長さ	
44	補強筋2本数	

6-3 梁

テーブル名		梁部材の断面情報を定義する。
6-3-1	断面情報(梁)	

No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 31:基礎大梁、32:基礎小梁、33大梁、34小梁	
3	階表示順コード	該当する「4-1:No.2 階表示順コード」を指定する。	
4	断面情報No.	梁の配筋等の断面情報を識別するために、ユニークな情報ごとに識別番号を設定する。	
5	記号	No.4の識別名称・記号を設定する。	
6	コンクリート強度	当該梁断面のコンクリート強度を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	断面形状	1.ストレート、2テーパ、3ハンチ	
8	始端梁巾(mm)	当該梁断面の始端梁巾を設定する。	
9	始端梁成(mm)	当該梁断面の始端梁成を設定する。	
10	中央梁巾(mm)	当該梁断面の中央梁巾を設定する。	
11	中央梁成(mm)	当該梁断面の中央梁成を設定する。	
12	終端梁巾(mm)	当該梁断面の終端梁巾を設定する。	
13	終端梁成(mm)	当該梁断面の終端梁成を設定する。	
14	主筋材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
15	主筋径(mm)	主筋の鉄筋の径を設定する。	
16	始端主筋:上端1段目	始端主筋の上段の本数を設定する。	
17	始端主筋:上端2段目	該当する鉄筋が無い場合は材種を空白、径を0とする。	
18	始端主筋:上端3段目		
19	始端主筋:下端3段目	始端主筋の下段の本数を設定する。	
20	始端主筋:下端2段目	該当する鉄筋が無い場合は材種を空白、径を0とする。	
21	始端主筋:下端1段目		
22	始端スターラップ材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
23	始端スターラップ径(mm)	始端スターラップの鉄筋の径、本数、ピッチを設定する。	
24	始端スターラップ:本数		
25	始端スターラップ:ピッチ(mm)		
26	始端腹筋材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
27	始端腹筋径(mm)	腹筋の鉄筋の径、本数を設定する。	
28	始端腹筋本数		
29	始端巾止筋材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
30	始端巾止筋径(mm)	巾止筋の鉄筋の径、本数、ピッチを設定する。	
31	始端巾止筋本数		
32	始端巾止筋ピッチ(mm)		
33	中央主筋:上端1段目	中央主筋の上段の本数を設定する。	
34	中央主筋:上端2段目	該当する鉄筋が無い場合は材種を空白、径を0とする。	
35	中央主筋:上端3段目		
36	中央主筋:下端3段目	中央の下段の本数を設定する。	
37	中央主筋:下端2段目	該当する鉄筋が無い場合は材種を空白、径を0とする。	
38	中央主筋:下端1段目		
39	中央スターラップ材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
40	中央スターラップ径(mm)	中央スターラップの鉄筋の径、本数、ピッチを設定する。	
41	中央スターラップ:本数		
42	中央スターラップ:ピッチ(mm)		
43	中央腹筋材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
44	中央腹筋径(mm)	腹筋の鉄筋の径、本数を設定する。	
45	中央腹筋本数		
46	中央巾止筋材種	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
47	中央巾止筋径(mm)	巾止筋の鉄筋の径、本数、ピッチを設定する。	

システム名

BS-Transfer(RC)

48	中央巾止筋本数		
49	中央巾止筋ピッチ(mm)		
50	終端主筋:上端1段目	終端主筋の上段の本数を設定する。	
51	終端主筋:上端2段目	該当する鉄筋が無い場合は材種をblank、径を0とする。	
52	終端主筋:上端3段目		
53	終端主筋:下端3段目	終端主筋の下段の本数を設定する。	
54	終端主筋:下端2段目	該当する鉄筋が無い場合は材種をblank、径を0とする。	
55	終端主筋:下端1段目		
56	終端スターラップ材種	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
57	終端スターラップ径(mm)	終端スターラップの鉄筋の径、本数、ピッチを設定する。	
58	終端スターラップ:本数		
59	終端スターラップ:ピッチ(mm)		
60	終端腹筋材種	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
61	終端腹筋径(mm)	腹筋の鉄筋の径、本数を設定する。	
62	終端腹筋本数		
63	終端巾止筋材種	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定す	
64	終端巾止筋径(mm)	巾止筋の鉄筋の径、本数、ピッチを設定する。	
65	終端巾止筋本数		
66	終端巾止筋ピッチ(mm)		

システム名
BS-Transfer(RC)

6-4 床

テーブル名		床部材の断面情報を定義する。	
6-4-1	断面情報(床)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 41:一般床、42:礎版、43:土間、44:階段床	
3	断面情報No.	床の配筋等の断面情報を識別するために、ユニークな情報ごとに識別番号を設定する。	
4	記号	No.3の識別名称・記号を設定する。	
5	コンクリート強度	当該床断面のコンクリート強度を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
6	型枠種別	当該床断面の型枠種別を示す情報を「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	床厚(mm)	当該床断面の厚さを設定する。	
8	ふかし厚上方向(mm)	当該床断面の上方向ふかし厚さを設定する。	
9	ふかし厚下方向(mm)	当該床断面の下方向ふかし厚さを設定する。	
10	配筋タイプ	当該床断面の配筋タイプを指定する。 1:シングル、2:ダブル、3:端部・中央・柱列	
11	上端短辺端部材種	上端短辺端部の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
12	上端短辺端部径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
13	上端短辺端部ピッチ(mm)		
14	上端短辺中央材種	上端短辺中央の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
15	上端短辺中央径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
16	上端短辺中央ピッチ(mm)		
17	上端短辺柱列材種	上端短辺柱列の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
18	上端短辺柱列径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
19	上端短辺柱列ピッチ(mm)		
20	上端長辺端部材種	上端長辺端部の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
21	上端長辺端部径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
22	上端長辺端部ピッチ(mm)		
23	上端長辺中央材種	上端長辺中央の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
24	上端長辺中央径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
25	上端長辺中央ピッチ(mm)		
26	上端長辺柱列材種	上端長辺柱列の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
27	上端長辺柱列径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
28	上端長辺柱列ピッチ(mm)		
29	下端短辺端部材種	下端短辺端部の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
30	下端短辺端部径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
31	下端短辺端部ピッチ(mm)		
32	下端短辺中央材種	下端短辺中央の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
33	下端短辺中央径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
34	下端短辺中央ピッチ(mm)		
35	下端短辺柱列材種	下端短辺柱列の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
36	下端短辺柱列径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
37	下端短辺柱列ピッチ(mm)		
38	下端長辺端部材種	下端長辺端部の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
39	下端長辺端部径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
40	下端長辺端部ピッチ(mm)		
41	下端長辺中央材種	下端長辺中央の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
42	下端長辺中央径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
43	下端長辺中央ピッチ(mm)		
44	下端長辺柱列材種	下端長辺柱列の鉄筋の材種、径、ピッチを設定する。	
45	下端長辺柱列径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
46	下端長辺柱列ピッチ(mm)		
47	先端補強筋材種	先端補強筋の材種、径、ピッチを設定する。	
48	先端補強筋径(mm)	材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
49	先端補強筋本数		

システム名

BS-Transfer(RC)

6-5 壁

テーブル名		壁部材の断面情報を定義する。	
6-5-1	断面情報(壁)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2.No.1 棟区分」を指定する。	
2	部位区分	以下の部位区分を選択して設定する。 51:壁、52:腰壁、53:下がり壁、54:擁壁	
3	断面情報No.	壁の配筋等の断面情報を識別するために、ユニークな情報ごとに識別番号を設定する。	
4	記号	No.3の識別名称・記号を設定する。	
5	コンクリート強度	当該壁断面のコンクリート強度を示す情報を「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
6	型枠種別(前面)	当該壁断面(前面)の型枠種別を示す情報を「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
7	型枠種別(背面)	当該壁断面(背面)の型枠種別を示す情報を「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
8	壁厚(mm)	当該壁断面の厚さを設定する。	
9	ふかし厚前面(mm)	当該壁断面の前面ふかし厚さを設定する。	
10	ふかし厚背面(mm)	当該壁断面の背面ふかし厚さを設定する。	
11	配筋タイプ	当該壁断面の配筋タイプを指定する。 1:シングル、2:ダブル、3:千鳥	
12	前面縦筋材種	前面縦筋の材種、径、ピッチを設定する。	
13	前面縦筋径(mm)	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
14	前面縦筋ピッチ(mm)		
15	前面横筋材種	前面横筋の材種、径、ピッチを設定する。	
16	前面横筋径(mm)	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
17	前面横筋ピッチ(mm)		
18	背面縦筋材種	背面縦筋の材種、径、ピッチを設定する。	
19	背面縦筋径(mm)	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
20	背面縦筋ピッチ(mm)		
21	背面横筋材種	背面横筋の材種、径、ピッチを設定する。	
22	背面横筋径(mm)	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
23	背面横筋ピッチ(mm)		
24	巾止筋材種	巾止筋の材種、径、ピッチを設定する。	
25	巾止筋径(mm)	材種は「3.No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
26	巾止筋ピッチ(mm)		
27			
28			
29			

システム名
BS-Transfer(RC)

7. 開口情報

テーブル名		開口補強筋の情報を定義する。	
7-1	開口情報(補強筋)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	該当する「2:No.1 棟区分」を指定する。	
2	開口データ区分	開口の区分を設定する。 1:床開口、2:壁開口	
3	開口情報No.	開口の識別番号を設定する。	
4	記号	No.3の識別名称・記号を設定する。	
7	補強筋1方向材種	開口補強筋(床:短辺方向、壁:縦方)の材種、径、本数を設定する。 材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
8	補強筋1方向径(mm)		
9	補強筋1方向本数		
10	補強筋2方向材種	開口補強筋(床:長辺方向、壁:横方向)の材種、径、本数を設定する。 材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
11	補強筋2方向径(mm)		
12	補強筋2方向本数		
13	補強筋3方向材種	斜方向鉄筋の材種、径、本数を設定する。 材種は「3:No.2 種別・材種コード」に登録したコードから選択して設定する。	
14	補強筋3方向径(mm)		
15	補強筋3方向本数		

テーブル名		開口部の形状を定義する。	
7-2	開口情報(座標)		
No.	項目名称	解説	備考
1	棟区分	「7-1:No.1~3」を設定する。	
2	開口データ区分		
3	開口情報No.		
6	座標構成No.	開口の頂点に1~nの番号を設定する。	
7	相対X座標(mm)	頂点1を座標原点(0,0)として、各頂点の座標(x,y)を設定する。	
8	相対Y座標(mm)		